

2015年度

自己点検・評価報告書



日本女子大学  
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

## 2015年度自己点検・評価報告書について

自己点検・評価委員会

委員長 佐藤 和人

2015年度の自己点検・評価報告書がまとまりました。今年度の自己点検・評価委員会活動として特筆すべきは、下部委員会である自己点検法人委員会及び自己点検教学委員会での議論を統合し、自己点検・評価規則の改定にも取り組んだことです。これは、前回の認証評価において、大学基準協会から指摘を受けた努力課題及び改善勧告の内容を検討し、学内において各部署の内部質保証が継続的に稼働するシステムの構築を目指したものです。過去2年間の報告書と合わせて2016年度に提出予定の改善報告書に記す実質的な前進であるととらえています。前進としてはもう一つ、エビデンスに基づく教育改善の実践をめざして、IR推進のために複数大学が加入する教学IRコモンズへの参加を決定したことがあります。また、それと同時に量的に測ることができない学生の思いや考えを知るために、卒業を控えた4年次学生のヒアリングも実施しました。

上記取り組みをはじめとして本学では2021年度のキャンパス統合に向けて全学を挙げた努力を重ねています。ただ、各部署におけるそれぞれの取組みを大学全体の進む流れに位置づけ、矛盾なくかつ優先順位の判断もしつつ、同時に中・長期計画を確実に実行することは容易ではありません。学内の構成員におかれましては、本報告書をしっかりお読みいただき、他部署における取組みの課題、及び解決に向けた動きを知るとともに、大学全体の統一的な努力の全体像を理解、把握していただきたいと思えます。本報告書をご覧いただく学外の皆様には、本学の取り組みについてご理解いただく一端となれば幸いです。

大学基準協会による本学の次期認証評価受審は2018－2019年度です。現在同協会では「『大学基準』及びその解説」の改定が進められており、過日パブリックコメントの受け付けも終了しました。大学基準の構成図にも変更があり内部質保証はより重要な項目になります。また、FD（ファカルティ・ディベロップメント）をも含むこむ広い概念としてのSD（スタッフ・ディベロップメント）が提唱されています。

翻って基準体系図を見れば、「大学基準」を頂点とする基準体系に基づき、その他の基準相互の調整を図るとされつつも、任意の分野別カテゴリーや専門職学位課程基準など各種基準の最終的な整合にはまだ時間がかかるという現実もあります。しかし、こうした大学評価を取り巻く社会情勢を俯瞰しつつ、法的に規定された認証評価の受審を丁寧になし、それを本学の研究教育のより良い明日に結び付けていく努力が重要であると考えています。大学の研究と教育が不断に改善され続けるための仕組みを稼働させ、それをしっかりと確認できることを願っています。

## 目 次

### I 大学・大学院

・大学全体	1
・家政学部	4
・家政学部通信教育課程	6
・文学部	8
・人間社会学部	10
・理学部	13
・大学院全体	15
・家政学研究科	16
・人間生活学研究科	17
・文学研究科	18
・人間社会研究科	20
・理学研究科	22

### II 事務局

・学園活動評価・改革計画室	24
・総務部	26
・管理部	33
・学務部	38
・学生生活部	41
・通信教育・生涯学習事務局	45

### III 附属機関

・図書館	50
・成瀬記念館	53
・総合研究所	55
・現代女性キャリア研究所	57
・教職教育開発センター	59
・生涯学習センター・リカレント課程	61
・メディアセンター	64
・カウンセリングセンター	66
・保健管理センター	68
・さくらナースリー	70

# I 大学·大学院

2015年度 到達目標点検シート

担当： 大学全体

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるP D C Aサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとI Rを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化

- P：中長期計画及び3ポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）。
- D：授業その他の活動の実施
- C：各単位における自己点検と各単位間の相互評価（第三者評価）→それらの自己点検教学委員会への報告→自己点検評価委員会（学長）からの提言。
- A：中長期計画及び3ポリシー（大学全体、学部学科）の見直し。学園総合計画委員会のもとにある教育研究改革部会、及び大学改革委員会のもとにある各分科会における改善検討。

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標1. 全学科の専門教育カリキュラムについてさらなる検討を行う。

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(1)学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証

今年度の達成状況： A ・ B ・ C

点検と今後の展望：全学科の専門教育科目について、ナンバリングの導入準備を進めた。また、グローバル科目、および学科・学部連携科目新設準備を開始した。

到達目標2. 教員配置が新カリキュラム案、および資格課程認定条件に沿っているか検証を継続する

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(1)学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証

②教職課程カリキュラム及び運営体制の見直し

今年度の達成状況： A ・ B ・ C

点検と今後の展望：教員人事のたびに、大学改革委員会にてカリキュラムツリー及びカリキュラムマップとの整合を確認した。

<p><b>到達目標 3. キャンパス一体化後の基盤的教育の枠組みを検討する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目： 1. Vision120 に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (1) キャンパス一体化に向けた教育体制の見直し③両キャンパス共通教育の統合と移行</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望： 大学改革委員会のもとにある各分科会での検討を基に、学園総合計画委員会のもとにある教育研究改革部会にて新カリキュラムの卒業要件科目及び単位数の案を提示し、各学科にて検討を依頼した。次年度も検討継続の予定である。</p>
<p><b>到達目標 4. 基礎外国語教育改革の実施を推進する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目： 1. Vision120 に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (3) 教員の総合力を生かした基盤的教育①必修英語科目のプログラム作成と実施 1-2 大学の教育改革 (1) 徹底した外国語教育 ①外国語教育科目の1クラスの少人数化 ②夏期・春期集中授業の充実 (2) 実践的な英語力の伸長 ①2 キャンパスの英語教育(運営体制・カリキュラム)の統一 ②必修クラスの少人数化 ③e ラーニングによる学習サポートシステム確立</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望： 来年度に全学部で英語を必修科目とすることを決定、実施準備を行った。また、e ラーニングを全学的に開始した。来年度は、授業内容のさらなる改善、および e ラーニングサポート体制の強化をはかる。</p>
<p><b>到達目標 5. 学部・学科を超えた教育上の連携を検討する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目： 1. Vision120 に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (2) 四つの科学系統(人間生活科学系・人文科学系・社会科学系・自然科学系)の発展</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望： 複数の学部学科が連携して実施する「学部学科連携科目」の新設を受け付け、大学改革委員会にて内容を精査検討した。次年度から数科目がスタートする。</p>
<p><b>到達目標 6. 入学定員の適正化を継続して進める</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目： 2. 大学・大学院の教育研究計画 (2) 学生受入方針(アドミッション・ポリシー)による適切な学生募集の展開 ①アドミッション・ポリシーの再確認 ②志願者の増加施策の検討 ③アドミッション・ポリシーに基づいた入試広報の拡充</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望： 入学課との連携の下で、各学部学科の入試査定において、適正人数が保持されるように努力をした。</p>

<p><b>到達目標 7. 卒業までの一貫した学修サポート体制の整備を継続して進める</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目： 2. 大学・大学院の教育研究計画          (4)学生支援(学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など)の充実          ①学生が自発的に学習する支援体制の検討 ②学生ポートフォリオの構築 ③障がいのある学生への学修支援体制整備</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：GPA 制度に基づき、成績要件が一定レベル以下の学生全員について学科の責任で面談を実施し、記録を残した。それに基づいて各学科で取り組んだ支援の成果については次年度検証する。また、次年度より施行される障害者差別解消法関連の学内体制整備について説明を受け、次年度からの整備に備えた。</p>
<p><b>到達目標 8. キャンパス一体化後の全学的キャリア教育の枠組みについて検討する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目： 3. 一貫教育、生涯教育計画          (1)基礎的・汎用的能力の養成 ①本学の特長を活かした基礎的な教養の検討          (2)女性の主体的な生き方を実現するためのキャリア教育 ①キャリア形成科目の内容検討          ②現代女性とキャリア専攻及びキャリア女性副専攻の科目の検討</p> <p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：大学改革委員会のもとにあるキャリア教育分科会にて、両キャンパスの副専攻及びキャリア形成科目、教養特別講義Ⅱにおける「キャリア教育」の要素を整理統合するための議論を重ね、学園総合計画委員会のもとにある教育研究改革部会において、新カリキュラムの枠組み案の中に「JWU キャリア (仮称)」の枠を設けた。各学科にて意見聴取中であり、次年度も議論を継続する。</p>
<p><b>到達目標 9. 教育力の向上に向けて、授業評価の検証結果を改善につなげる体制を構築する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：. 大学・大学院の教育研究計画          1)学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証          ⑨学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：教育の内部質保証の PDCA サイクルを実質化するために、自己点検規則の改定に向けて自己点検教学委員会にて検討をスタートさせた。また、お茶の水女子大学を中心とする教学 IR コモンズへの加入が決定し、次年度以降の学修行動調査実施など、授業評価結果だけではなく教学 I R データの活用による教育改革に向けた学内体制の検討に入った。</p>

## 2015年度 到達目標点検シート

担当： 家政学部

## 1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDC Aサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化

家政学部を考える会で、到達目標3に関して6月までに2015年度の課題を決定。前学園活動評価・改革計画室長から提起された、これまでの授業評価アンケートをPDC Aサイクルの一環として利用するため、家政学部共通科目で先行的に実施することを決定。アンケート項目の検討。自己点検教学委員会とFD委員会への報告、及び講義担当者の承諾を経て、アンケート結果の集計と分析を行う。これは学部のディプロマ・ポリシーに関して、PDCのサイクルにあたる。

家政学部学科長会において、全学の学科レベルでのカリキュラム・ポリシーの見直しと科目のナンバリング作業に向けて、学部としての共通性を保つため専門の講師を招請して、集中的に共同作業を行う。

家政学部通信教育課程学務委員会において、到達目標1の通信教育課程の改革に関して通学課程の学科との情報共有や連携について協議を行う。

学部長会・大学改革委員会において、家政学部や学科の課題や独自の取り組みに関して適時報告し、協議する。とりわけ到達目標2の児童学科の保育士養成課程の設置については、大学改革委員会を中心としたワーキンググループ（児童学科も含む）で作業を行う。

## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標1. 通信教育課程の中期的到達目標を、通信教育課程と家政学部構成学科（通学課程）が協働して新たに設定し、その目標を達成するための枠組や諸条件を検討・段階的に整備する。ただし中期的目標の新しい設定には、家政学部通信課程の廃止も選択肢の一つとして含まれる

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(5)通信教育課程 通信教育課程の今後のあり方について検討する。

今年度の達成状況： A ・ B ・ C

点検と今後の展望：学部長室と通信教育課程学務委員会が中心となり、これまでの通信教育課程改革案を整理し、4名の専任教員あるいは特任教員の増員を前提に、継続・発展プランを作成した。これまでの教員資格に追加して、新たに学べる資格・分野を明示した。2016年度から4名の特任教授が増員となり、児童学科は「表現アートセラピー」、生活芸術学科は「繊維製品品質管理士TES」の受験対策科目の設置や、二級建築士・木造建築士の受験資格に関連する科目の設置など、改革案を提示した。この具体化や通学課程との連携の深化がこれからの課題となる。



**到達目標 2. 児童学科の保育士養成課程の設置に関連して、幼・保資格コースと高度児童学の専門教育コースが両立するように、家政学部全体として保障する枠組みを作る**

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(1)学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証

①保育士養成課程の設置 ②教職課程カリキュラム及び運営体制の見直し

今年度の達成状況： **A** ・ B ・ C

点検と今後の展望：2016年度保育士養成課程の申請に向け、児童学科のカリキュラムの全面的再編、2016年度・2017年度の4名の専任教員の交代と1名の特任教授の増員、実習先の確保と補助の非常勤教員・職員の確保など、学科を超える多くの課題があり、特に人事面では家政学部全体で協働する必要があった。このすべての課題に現段階ではクリアしているが、具体化は2016年度以降なので、とりわけ家政学部全体のカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーとの関連や調和を協議していく必要がある。さらに児童学科の保育士養成課程の設置が、家政学部のディプロマ・ポリシーの変更や家政学部の改革にどのように関連するか協議してゆく。

**到達目標 3. 家政学部共通の選択必修科目（3科目6単位以上）を家政学部全体が共有する専門科目の基礎として明確化し、教育の内部質保証につながる学生アンケートの実施や、それぞれの学科が持つ学生データを活用して、エビデンスベースによる目標達成を明確にできるような手法を開発する**

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(1)学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証

今年度の達成状況： A ・ **B** ・ C

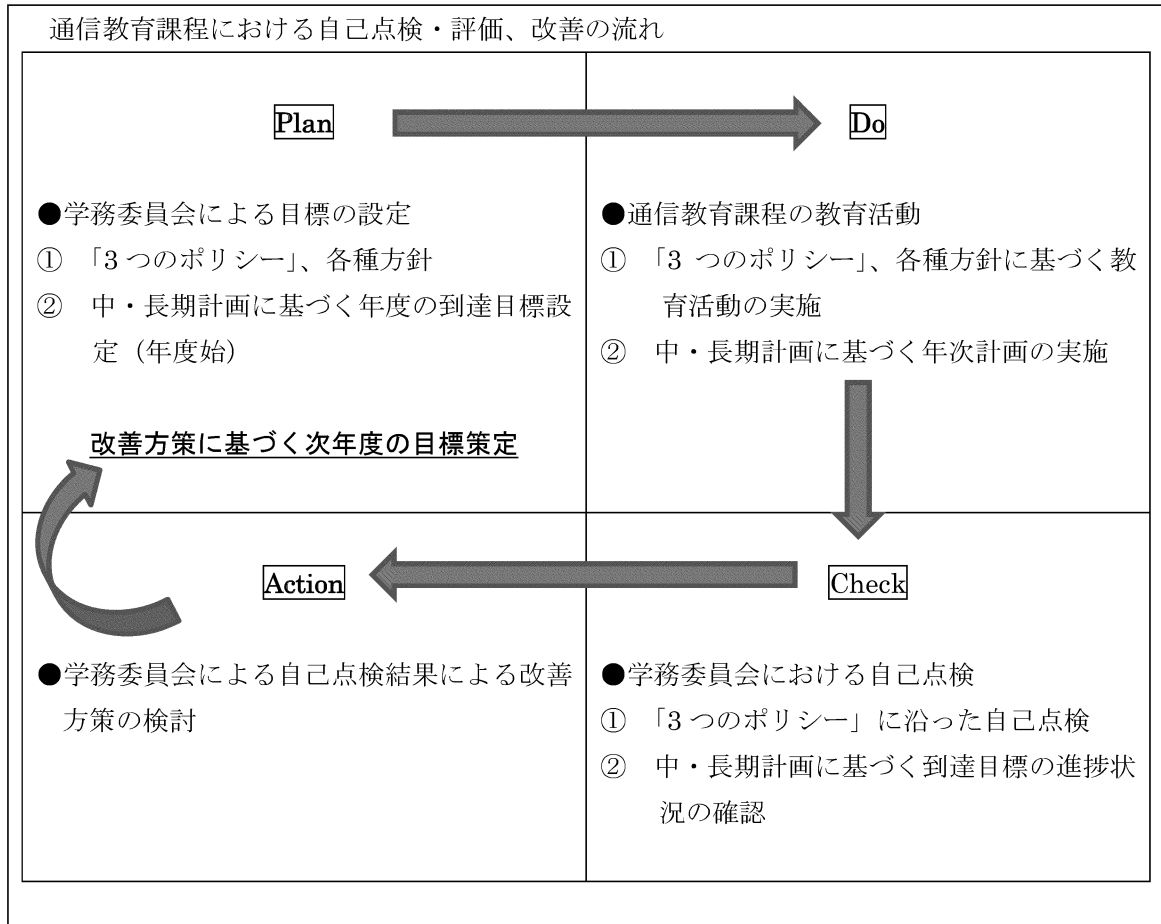
点検と今後の展望：家政学部共通科目授業アンケートは、2015年度前期6科目で行われた。5学科すべての回答者がいるのは家政学概論 B (1年次履修者 68名)、人間と生活 A (1年次履修者 172名)、消費者教育論 (2年次履修者 158名+3年次履修者 26名) である。それぞれの科目の到達目標に対する自己評価は相対的に高く、これに対して3項目の家政学部ディプロマ・ポリシーを授業を通してどの程度身に付けたかという問いは、非常に低い評価付けとなった。アンケート調査の作成時においても、家政学部を考える会ではこの点での低い評価付けが予測され議論となっていた。3項目の家政学部ディプロマ・ポリシーは、いわば卒業時での総体としての到達目標であり、個々の授業科目での到達目標となじまないという意見であった。2016年度から、授業アンケートを全学的に内部質保証に活用することが確認され、この調査は予備調査と位置付けることができるので、家政学部を考える会、FD委員会、研究・学修支援課と協働してこの結果を分析して、目標達成に寄与するアンケート調査票の作成と手法を進めてゆく。

2015 年度 到達目標点検シート

担当： 家政学部通信教育課程

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わる P D C A サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと I R を活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化



2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標 1. 教育の質保証に向けて学修過程等の現状を把握し、可視化への方策を検討する

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画  
 (1)学位授与方針(ディグロム・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証  
 ⑨学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック

---

今年度の達成状況： A ・ **B** ・ C

点検と今後の展望：通信教育課程の今までの学生の状況把握のため、年代別・地域別データを作成した。次年度以降は、より内部質保証に関わるデータの分析を進める。

**到達目標 2. 通信教育課程の今後の方向性に向け情報を整理しスケジュールを作成する**

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(5)通信教育課程 通信教育課程の今後のあり方について検討する。

今年度の達成状況： A ・ **B** ・ C

点検と今後の展望：年度当初は通信教育課程存続の有無に関する情報を整理し、理事会までの会議等を念頭におきスケジュールを作成した。7月に存続が決定し、その後新たな通信教育課程のありようが見えてきたので、次年度はそれに基づいた通信教育課程の中・長期計画を作成する。

**到達目標 3. 学習の進まない学生や除籍・退学希望者の現状を把握し、在学生の満足度および定着率を上げるための支援の方策を検討する**

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(4)学生支援(学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など)の充実 ①学生が自発的に学習する支援体制の検討

今年度の達成状況： A ・ **B** ・ C

点検と今後の展望：今年度はデータ収集により現状の把握を行ってきたので、次年度以降はさらに必要なデータ収集は続けるとともに、学務委員として目標達成のために行うべき学修支援を検討する。

2015 年度 到達目標点検シート

担当： 文 学 部

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わる P D C A サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと I R を活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化

P 内部質保証の議論による共通認識を踏まえた実現への具体的方策の策定

各学科の会議で具体的方策を検討する

D 具体的方策を試行的に実施

各学科で決めた方策に従って、個々の教員が実施する

C 試行の結果を検証し有効性を確認し実施計画を確定

各学科の会議で検証し、実施計画を確定する

A 検証結果としての実施計画を執行

各学科の計画に従って、個々の教員が執行する。

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標 1. カリキュラム・ツリーのもとでのカリキュラム内容構成の点検

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(1)学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証

④教育課程の体系化(シラバス、コース・ナビゲーションの整備など)

今年度の達成状況：  A · B · C

点検と今後の展望：各学科において、ディプロマ・カリキュラム両ポリシーを前提として、その実績を確保するため、カリキュラムの全体像を可視化したカリキュラム・ツリーにより、カリキュラムの内容とともに、その成果実現のためのカリキュラム体系を検討した。今後は学部において、より内容に踏み込んだ学科間のカリキュラムの相互調整を行う必要がある。

到達目標 2. eラーニングの実施確認とその成果検証

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(1)学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証

⑨学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック

今年度の達成状況：  A · B · C

点検と今後の展望：今年度より利用範囲を全学生に拡大し、基礎礎英語教育を中心として授業に積極的にeラーニングを導入し、学修上の到達点を確認しやすい指標を示し、一定の成果を得た。ただしeラーニングを授業成果の検証手段に導入した授業数を増やすこと、eラーニングを活用する全学学生の絶対数の増加を図ることが課題となる。

## 3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

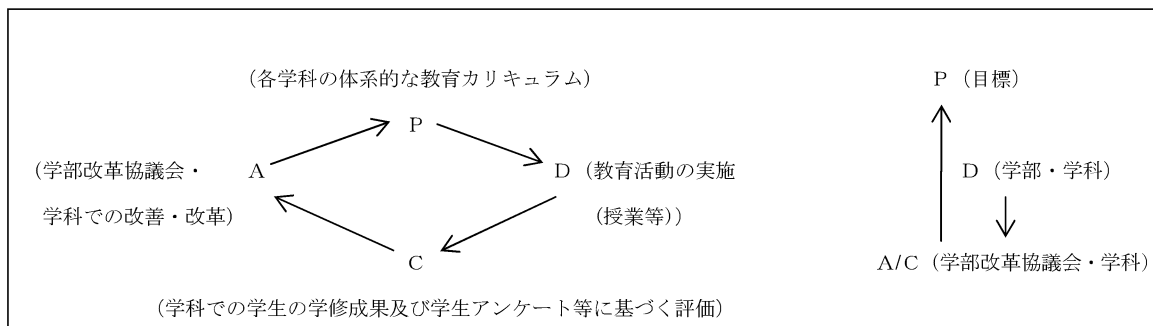
<p>到達目標 3. 各学科におけるカリキュラム・ツリーの点検と修正</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： <input checked="" type="checkbox"/> A ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：カリキュラム体系を可視化したカリキュラム・ツリーについて、2021年度の時点でのその必要性和実現性を、個別科目の次元まで立ち戻って検討を加えた。今後はカリキュラムの実施の条件を検討し、学科を越えた実施に向けた作業を進める必要がある。</p>
<p>到達目標 4. 基礎語学教育改革の新たな取り組みの検討</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： <input checked="" type="checkbox"/> A ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：基礎語学教育改革の第一歩として、英文学科が基礎英語の小クラス化と教育内容の大幅な改革を昨・本年度の二年にわたって進め、見るべき成果を得た。今後は小クラス化を実現した史学科担当の初修外国語（仏・独・中・韓）の教育において、各言語のeラーニングシステムの採用を検討する。さらに基礎外国語全体としてeポートフォリオの導入を積極的に図りたい。</p>
<p>到達目標 5. 入学志願者の増加策の検討と実施</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： <input checked="" type="checkbox"/> A ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：二年続きで受験生が減少した現実を踏まえ、受験生を増加させる取り組みを進めた。特に各学科のもつ特徴的な教育システムをより広く広報するため、受験生に直接に情報を届ける工夫を重ねると共に、大学説明会における模擬授業、高校教員対象のセミナー等を重ね、本年度は昨年比で3割ほど一般入試の受験生が増加した。今後も、受験生増を図るための具体的な施策を実施する必要がある。</p>

## 2015年度 到達目標点検シート

担当：人間社会学部

## 1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化



## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

## 到達目標 1. 1年次必修英語の、2016年度実現のための体制を確立する

対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画

1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革

(1) キャンパス一体化に向けた教育体制の見直し (3) 両キャンパス共通教育の統合と移行

(3) 教員の総合力を生かした基盤的教育 ① 必修英語科目のプログラム作成と実施

1-2 大学の教育改革

(2) 実践的な英語力の伸長 ① 2キャンパスの英語教育 (運営体制・カリキュラム) の統一 ② 必修クラスの少人数化

今年度の達成状況：  A  B  C

点検と今後の展望：2016年度からの1年次必修英語の実施体制は確立した。4月4日プレイスメントテストを実施し、習熟度別クラスによる授業を開始することを決定した。

## 到達目標 2. 展開科目と教養科目の摺り合わせについて、各学科で検討する

対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画 1-1

(3) 教員の総合力を生かした基盤的教育 ② 教養科目の全学共通カリキュラム作成

今年度の達成状況： A  B  C

点検と今後の展望：展開科目と教養科目の摺り合わせにおいて、「教養実践演習」を今年度開講し、加えて新たに、2016年度より、アクティブラーニングを取り入れた科目を1科目、展開科目で試行的に提供することを決定した。2016年度の学部改革協議会で（予定より1年前倒しで）、各学科の意向を踏まえて、調整をはじめめる計画である。

<p><b>到達目標 3. 情報教育の必修化について、各学科で検討する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画 1-1  (3) 教員の総合力を生かした基盤的教育 ③情報教育についての検討</p>
<p>今年度の達成状況： <input checked="" type="checkbox"/> A ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：各学科での検討を踏まえて、情報教育検討分科会において、2021 年度までに必修化の方向を進めていく方針を確認し、全学的な情報カリキュラムについて、今後検討が必要であることを確認した。</p>
<p><b>到達目標 4. 身体運動と健康教育の必修化について、各学科で検討する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画 1-1  (3) 教員の総合力を生かした基盤的教育 ④身体運動と健康教育についての検討</p>
<p>今年度の達成状況： <input checked="" type="checkbox"/> A ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：各学科での検討を踏まえて、学部として必修化を図ることを了承した。</p>
<p><b>到達目標 5. e ラーニングによる学習サポート体制を確立する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画  1-2 大学の教育改革 (2)実践的な英語力の伸長 ③e ラーニングによる学習サポートシステム確立</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <input checked="" type="checkbox"/> B ・ C</p> <p>点検と今後の展望： e ラーニングによる学習は、全学生が可能となり、今年度はランゲージ・ラウンジの場でそのサポートが行われたが、学習サポート体制の確立にまでは至らなかった。今後の課題である。</p>
<p><b>到達目標 6. 副専攻プログラムによる異文化理解教育の実施に向けて検討する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画  1-2 大学の教育改革 (3)国際人としての深く広い教養 ②副専攻プログラムでの異文化理解教育の推進</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <input checked="" type="checkbox"/> B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：昨年度の議論を継続させ、従来の副専攻制度の見直し、新しい学部・学科横断型プログラムについて検討した。今後も、他の分科会と連携を取りながら、副専攻検討分科会での新しい副専攻プログラムの検討に相乗りするかたちを考える。</p>
<p><b>到達目標 7. 教職課程カリキュラム及び運営体制を再検討し、盤石化を図る</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画  (1)学位授与方針(ディグロム・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証  ②教職課程カリキュラム及び運営体制の見直し</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <input checked="" type="checkbox"/> B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：次年度に向けて、特に、教育学科の 2016 年度入学者からのカリキュラムの見直しを行った。今後は、統合に向け、運営体制のさらなる盤石化を図る。</p>

### 3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標 8. 学部教育活性化の一環として、「大地連携ワークショップ in ニューヨーク」へ教員、学生を派遣し、成果の学部教育への還元を図る

今年度の達成状況：  A ・ B ・ C

点検と今後の展望：8月8日～16日に、教員1名、学生2名を派遣し、帰国後、学部規模での報告会（11月12日）を開催して、成果の共有化をおこなった。

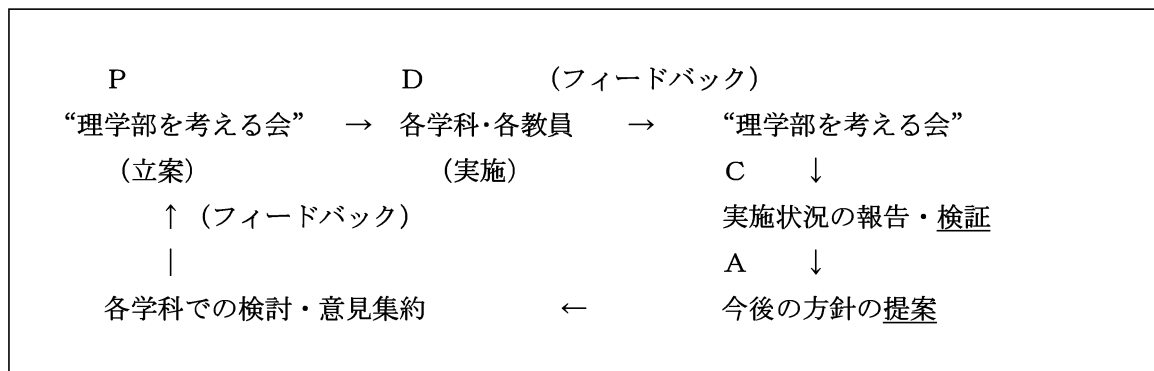


## 2015年度 到達目標点検シート

担当： 理 学 部

## 1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化



## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

## 到達目標1. ニーズに即した情報教育の検討と科目構成の見直し

対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画  
1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革  
(4) 総合大学にふさわしい専門教育(大学)と高度専門教育(大学院)  
学士課程 ①各分野の基礎教育を充実させる。

今年度の達成状況： A ・ B ・ C

点検と今後の展望： 本学における情報教育への関わり方について、「理学部を考える会」で検討をおこない、「情報教育検討分科会」に於いて議論をおこなった結果、「基礎情報処理」の授業について、理学部は来年度より必修化、人間社会学部については、キャンパス統合を視野に、必修化の方針が確認された。学部・学科ごとの授業内容については、今後アンケートなどをおこない、その意向をくみ上げていく予定である。

## 到達目標2. グローバル化に対応する専門分野の英語教育の充実

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画  
(3) 国際化に向けた対応 ①外国語学習環境の整備・充実

今年度の達成状況： A ・ B ・ C

点検と今後の展望： ネイティブ講師による、専門英語教育の試行として、本年度は、物質生物科学科コロキウムの中で、生物分野の内容について、授業4回相当分をおこない、28名の参加者があった。アンケート結果も好評で、来年度以降、他分野の講師による講演についても検討をおこなっており、受講者の動向、感想等を参考に、充実を図っていく予定である。単位化については、受講者減等の可能性も考えられ、現時点では結論に至っていない。

## 3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p>到達目標 3. 学科ごとの地域連携活動の学部としての現状把握と継続的、積極的活動への学部としての支援の検討</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：各学科・各教員に問い合わせる形で、学部内の地域連携活動の現状をとりまとめた。各教員の費用でおこなわれてきた活動については、基本的には学部として経済的援助をおこなう方針を確認した。</p>
<p>到達目標 4. 1年次教育の現況報告と問題点に関する意見交換、対応策についての検討</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：「物理学概論」、「生物学概論」、「化学概論」、「線形代数学」、「微分積分学」の各科目でのプレースメントテストの有無、クラス分けの方法、効果測定の結果等について、情報交換をおこない、検証をおこなった。学部全体として提供している「総合自然科学」については、4分野それぞれの教員から本年度の授業状況の報告と議論を行い、来年度に向けての方針を確認した。</p>
<p>到達目標 5. 2014年度入試アンケート結果等の分析を通して学部としての入試対策を検証</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：各学科で、「入学時アンケート」の集計結果について意見を集約してもらい、その意見を“理学部を考える会”に持ち寄り検証をおこない、今後の入試対策活動に反映させることとした。また、8月におこなわれたオープンキャンパスの学部企画について、担当者からの報告と検証を経て来年度の実施方法について方針を決定した。</p>

2015年度 到達目標点検シート

担当：大学院全体

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDC Aサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化

各専攻の会議において、課題とした事項について、  
 専攻主任会において、報告検討し、共通課題となるものを整理する。  
 研究科委員会において、その課題について議論し方策を決定し、それを各専攻において実施する。また、課題として挙げられたことの達成度についても協議検討し、必要な事項については、各専攻にもどして、具体的な対策を協議する。  
 研究科委員長会では、各研究科を超えて、議論の必要な事項についてとくに議論する。

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

**到達目標 1. ホームページやオープンキャンパスなどを利用して、研究環境や研究成果、修了者の進路などの情報を積極的に発信して、定員の充足をはかる**

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(2)学生受入方針(アドミッション・ポリシー)による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討

今年度の達成状況： A ・ B ・ C

点検と今後の展望：修了者の進路等をオープンキャンパスやガイドブックを通じて発信した。またオープンキャンパスでは、大学院のブースを設けて、教育内容の発信に努めた。大学院独自の説明会は専攻によっては、実施された。しかし、全般的には、定員の充足が十分はかれたとはいえない。今後は、よりホームページの充実をはかり、英語でもアクセス可能な環境を作る必要があると考える。

**到達目標 2. 海外の大学との学生・教員の相互交流をはかり、留学生も積極的に受け入れ可能な教育環境の国際化をはかる**

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(3)国際化に向けた対応 ③外国人留学生・教員の相互交流の推進 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実

今年度の達成状況： A ・ B ・ C

点検と今後の展望：各研究科において、海外の教員を招へいしてシンポジウムを開催するなど多角的な国際交流が行なわれた。留学生の受け入れについては、留学生が受験しやすい試験の体制について検討され、一部の研究科では、専門試験の解答を英語を可とする、外国語（英語）の試験については外部試験の利用を可能とするなどの対策が取られた。今後は、こうした試験体制の変革を大学院全体の取り組みとするとともに、情報を積極的に発信する必要がある。また、留学生の積極的な受け入れについては、日本語習得のサポートや奨学金など制度の拡充も検討したい。

## 2015年度 到達目標点検シート

担当： 家政学研究所

## 1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化

各専攻の会議において、課題とした事項について、  
 専攻主任会において、報告検討し、共通課題となるものを整理する。  
 家政学研究所委員会において、その課題について議論し方策を決定し、それを各専攻に  
 において実施する。また、課題として挙げられたことの達成度についても協議検討し、必要な  
 事項については、各専攻にもどして、具体的な対策を協議する。  
 研究科委員長会では、各研究科を超えて、議論の必要な事項についてとくに議論する。

## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標1. 修了者から、在学生や入学希望者への研究プロセスや研究方法のフィードバックを行  
 うとともに、終了後のキャリアのイメージを示し、定員の充足をはかる

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(2) 学生受入方針(アドミッション・ポリシー)による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討

今年度の達成状況： A ・  B ・ C

点検と今後の展望：修了者の進路等をオープンキャンパスやガイドブックを通じて発信した。また  
 オープンキャンパスでは、大学院のブースを設けて、教育内容の発信に努めた。大学院独自の入学  
 説明会は専攻によっては、実施されたが、学部とは受験の時期も異なるため、そうしたタイムスケ  
 ジュールを見据えた大学院独自の説明会の実施の徹底をはかる必要がある。また、内部進学者のた  
 めに、大学院の科目の先取り履修の実施を可能とし、一部専攻では、次年度から実施が決定した。

到達目標2. 海外からの留学生が入学しやすい研究環境の整備を行う

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(3)国際化に向けた対応 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実

今年度の達成状況： A ・ B ・  C

点検と今後の展望：留学生が受験しやすい試験の体制について検討し、外国語（英語）の試験につ  
 いては外部試験の利用を可能とすること、専門科目の英語による出題等が検討されたが、次年度以  
 降の実施となる。また、英語による講義も一部実施された。しかし、留学生の積極的な受け入れに  
 ついては、日本語習得のサポートや奨学金などの制度の拡充も検討する必要がある。また、教育内  
 容を発信するためにも英語によるホームページの作成も必要である。

## 2015年度 到達目標点検シート

担当： 人間生活学研究科

## 1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化

各専攻の会議において、課題とした事項について、  
専攻主任会において、報告検討し、共通課題となるものを整理する。  
人間生活学研究科委員会において、その課題について議論し方策を決定し、それを各専攻において実施する。また、課題として挙げられたことの達成度についても協議検討し、必要な事項については、各専攻にもどして、具体的な対策を協議する。  
研究科委員長会では、各研究科を超えて、議論の必要な事項についてとくに議論する。

## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標1. 人間生活研究科における人間発達学専攻と生活環境学専攻の2専攻を一体化し、教員、学生の相互交流を活発にし、より学際的な研究環境を創造する。

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(1) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証

④教育課程の体系化(シラバス、コース・ナバリングの整備など)

今年度の達成状況： A ・ B ・  C

点検と今後の展望：人間発達学専攻と生活環境学専攻の一体化については、本年度、次年度の人事を鑑み、その方向性を見据えて検討することとなった。したがって、次年度以降も継続的に審議することとしたい。

到達目標2. 内部からの入学者希望者に対して、連続的なかつ効果的な研究スケジュールを可能とするために内部推薦制度を導入する

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(2) 学生受入方針(アドミッション・ポリシー)による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討

今年度の達成状況：  A ・ B ・ C

点検と今後の展望：内部推薦制度については、今年度から実施し、定員の充足において大きな成果をあげた。次年度以降も、継続的にこの制度を告知し、優秀な人材の確保に努めるとともに、外部からの受験者の獲得の方策について協議する。

## 2015年度 到達目標点検シート

担当：文学研究科

## 1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるP D C Aサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとI Rを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化

<p>●文学研究科における内部質保証のシステム ( ) は責任母体</p> <p>P：文学研究科及び各専攻のディプロマ・ポリシー（文学研究科委員会、各専攻）</p> <p>D：文学研究科及び各専攻のカリキュラム・ポリシーに沿った授業と研究指導の実施</p> <p>①コースワーク：各専攻で定められた授業（各専攻）</p> <p>②リサーチワーク：学位論文のテーマに沿った個別の指導（各専攻）</p> <p>C：学修成果、研究成果の確認（文学研究科委員会、専攻主任会、各専攻会議）</p> <p>①コースワーク：シラバスに示された成績評価方法による厳格な成績評価</p> <p>②リサーチワーク：学位論文審査基準に沿って審査を行うため、審査委員会を設置し、主査及び副査各2名による審査後、当該専攻全専任教員による審査及び最終試験を実施、その結果について文学研究科委員会で審議可否を決定する。</p> <p>これらの学修成果、研究成果よりディプロマ・ポリシーに沿った成果が上がっているかについて自己点検する。</p> <p>A：自己点検結果、論文返却会における反省会での意見聴取等を基に必要な応じてカリキュラム、指導方法等の改善方策を検討する。（文学研究科委員会、専攻主任会、各専攻会議）</p>
--

## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p>到達目標1. 博士号の学位取得を奨励し、その質の向上のための指導を強化する</p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120に向けての将来計画</p> <p>1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革</p> <p>(4)総合大学にふさわしい専門教育(大学)と高度専門教育(大学院)</p> <p>大学院教育 ②より高度な学位論文作成のために学生それぞれにあった個別指導を行う</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： <input type="text" value="A"/> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：論文の着想段階から執筆のあらゆる過程において、指導教授がきめ細かい個人指導を行っている。また、中間発表会（成果報告会）及び、論文の予備審査を行い、指導教授以外の視点でもって論文内容を評価する機会を持っている。今後も、引き続き、院生に研究情報発信の経験を積むため、学会や研究会などの参加、学会誌や紀要などへの論文投稿を奨励する。</p>
---

**到達目標 2. 社会人入学志願者の増加を目指す**

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(2) 学生受入方針(アドミッション・ポリシー)による適切な学生募集の展開 ②志願者の増加施策の検討

今年度の達成状況： A ・ **B** ・ C

点検と今後の展望：志願者の増加対策のため、各専攻のホームページに専攻の紹介を盛り込むこと  
によって、各専攻への理解に努めたが、さらなる工夫が必要である。

**到達目標 3. 修了生の質保証について検討する**

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(1)学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証

今年度の達成状況： **A** ・ B ・ C

点検と今後の展望：修士及び博士を習得するに足る知識、考察ができるように、各専攻及び文学研究科委員会でカリキュラムを検討、審議している。各専攻において修士論文及び博士論文に対しての複数の教員による厳正な審査と、口述試験を実施し、合否を審議した後、その結果を文学研究科委員会において審議している。

**3. その他**

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

**到達目標 4. FDについて文学部と合同の会議を開催する**

今年度の達成状況： A ・ **B** ・ C

点検と今後の展望：FDについて文学部との合同の会議は行わなかったが、日本文学専攻では、学部生の大学院科目の先取りが単位数を限定して来年度から可能になり、それを文学研究科委員会で審議したことから学部との連携はかなり、意識している。

**到達目標 5. 学生の研究、論文作成についての行動規範を明示する**

今年度の達成状況： **A** ・ B ・ C

点検と今後の展望：院生の研究、論文作成についての行動規範は、毎年学生に配布する『大学院要覧』の中の「日本女子大学大学院学位規定」にすでに明示されているが、文学研究科用に、「日本女子大学学位規定の運用のうち、文学研究科の博士の学位授与に関する覚書」に行動規範について追加し、明記した。

## 2015 年度 到達目標点検シート

担当： 人間社会研究科

## 1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化

<「人間社会研究科を考える会」での検討と問題提起→専攻主任会での計画の策定→各専攻での議論を経て専攻主任会での決定→研究科委員会での決定→「人間社会研究科を考える会」での検討>というサイクルで質保証を図っている。

## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

## 到達目標 1. 各専攻における大学院学生のキャリアパスの明確化に努める

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(1)学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証

3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1)キャリア開発とリカレント教育課程

今年度の達成状況： A ・  B  ・ C

点検と今後の展望：「人間社会研究科を考える会」においてこの件について検討し、『大学院 GUIDE』の人間社会研究科全体に関わるページの変更を行った。具体的には、これまで「これまでの学位論文のタイトル」が掲示されていた部分に代えて、各専攻で取得可能な資格や大学院での研究生生活に望まれることなどを示し、キャリアパスの明確化を図った。今後は、こうした情報提供の努力をさらに推し進める必要がある。

## 到達目標 2. 大学院学生の学習・研究に対する支援の充実を図る

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(4)学生支援(学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など)の充実

今年度の達成状況： A ・  B  ・ C

点検と今後の展望：大学院総括運用費を文献データベースソフト EndNote の購入に当て、大学院博士課程前期および後期課程の初年次生を中心に大学院生に配布した。また、このソフトを活用するための講習会を2回にわたって開催した。今後は、このソフトの利用状況について調査して導入の効果を検証するとともに、他の方法による支援の可能性をも探ることとする。また、移転後の大学院生の研究環境の確保にも留意する。



**到達目標 3. 社会人入試の拡充を検討する**

対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画  
一生を支える生涯教育 (1) キャリア開発とリカレント教育課程

今年度の達成状況： A ・ **B** ・ C

点検と今後の展望：「人間社会研究科を考える会」においてこの件について検討し、社会人入試を拡充した場合にターゲットなる対象者と予想される課題の明確化を図ったが、研究科としての共通了解を得るまでには至らなかった。ただし、10月入試の日程を従来の金・土から土・日に変更し、社会人にとってもより受験しやすい日程とした。今後は、社会人入試の拡充に向けての課題認識の共有をさらに図る必要がある。

**到達目標 4. 留学生を主な対象とした新たな入学制度導入の可能性を検討し、課題を整理する**

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画  
(3) 国際化に向けた対応 ⑤留学生受け入れ体制の整備充実

今年度の達成状況： **A** ・ B ・ C

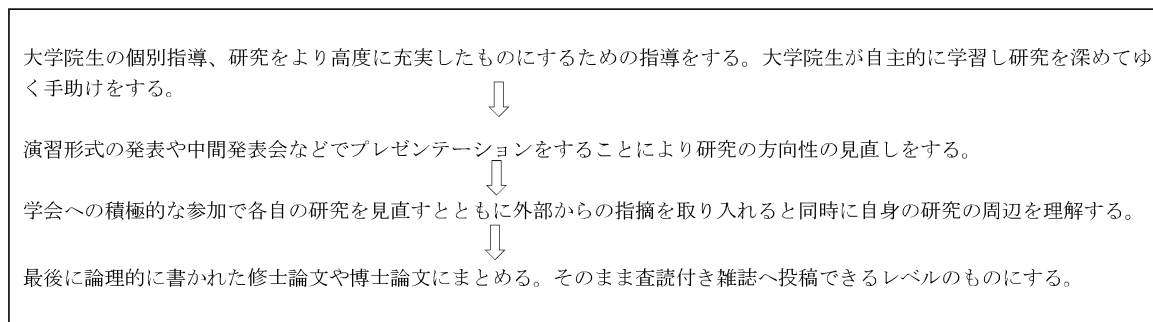
点検と今後の展望：「人間社会研究科を考える会」において2回にわたってこの件について検討し、課題を整理した。学費の軽減、学寮の整備、秋入学制の導入などの制度的課題と、協定校の開拓、学修支援の充実などの個別的課題が明らかになった。

## 2015年度 到達目標点検シート

担当： 理学研究科

## 1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化



## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 1. 研究科、専攻の研究指導体制を点検する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画 1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (4)総合大学にふさわしい専門教育(大学)と高度専門教育(大学院) ②より高度な学位論文作成のために学生それぞれにあった個別指導を行う ③大学院教育の成果発表のために学会活動やインターンシップを奨励する</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： <input type="text" value="A"/> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：②は達成されている。③に関しては、学会活動での成果発表は十分達成されている。インターンシップの奨励は継続して実行する。</p>
<p><b>到達目標 2. 社会人入学制度改革による大学院入学者の確保と女性のキャリアアップの支援</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1)キャリア開発とリカレント教育課程 ①リカレント教育課程など、卒業後の学びによるキャリアアップについての検討 ②大学院における社会人の学位取得プログラムの充実</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <input type="text" value="B"/> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：社会人が大学院に入学し易くするための改革を行った。この改革の実効性を見定め、必要があれば、実情により即した形に改定する。</p>

3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p>到達目標 3. 日韓三女子大学合同シンポジウムを継続して開催するなど、大学院教育の国際化を推進する。</p>
<p>今年度の達成状況： <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p> <p>点検と今後の展望：毎年充実した学会となっており、学术交流という面で成果を上げている。引き続き大学院生の参加を奨励する。</p>
<p>到達目標 4. 理学部サマースクールや文京区科学特別教室などを継続し、地域社会と連携して、科学の啓蒙活動を推進する。</p>
<p>今年度の達成状況： <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p> <p>点検と今後の展望：毎年順調に行われており、好評である。今後も重要なイベントとして位置づけ、継続してゆく。</p>

## Ⅱ 事務局

2015 年度 到達目標点検シート

部署名： 学園活動評価・改革計画室

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンススペースによるプロセスの可視化

<p>P：中・長期計画、各種方針に連動した事業計画や年度の到達目標</p> <p>D：事業計画、到達目標達成に向けて「学園事務分掌規程」に基づく業務</p> <p>C：事業報告による事業計画の実施状況の確認、到達目標の達成度の確認</p> <p>A：今年度の業務の振り返りを通して、改善すべき事項を盛り込んだ次年度の事業計画、到達目標を策定する</p>
--

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p>到達目標 1. 中・長期計画の各項目に対する目標を設定、年度末に作成する報告書ではその進捗状況が可視化できるようにする</p> <p>対応する中・長期計画の項目：6. 計画推進等の体制</p> <p>(1) 中・長期計画の実施体制、責任主体 ①年度ごとの計画の進捗状況の確認と見直し</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A</span> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望： 第6回自己点検・評価委員会にて今年度の「到達目標確認シート」をとりまとめ、中・長期計画に対する今年度の進捗状況が確認できる資料を作成した。次年度の中・長期計画に関する到達目標策定の参考とする。</p> <hr/> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：自己点検・評価委員会から今年度の到達目標策定を依頼—各機関で到達目標を策定</p> <p>D：到達目標の達成に向けた活動</p> <p>C：各機関での到達目標の達成度を自己点検し、自己点検・評価委員会に報告</p> <p>A：各機関で自己点検の結果に基づき、改善方策を含む次年度の到達目標策定を行う</p>
--

<p>到達目標 2. 2016 年度の改善報告書作成に向けて、努力課題、改善勧告の改善を推進する 対応する中・長期計画の項目：6. 計画推進等の体制</p> <p>(2) 中・長期計画の実施に対する点検・評価体制 ③大学基準協会による認証評価の受審</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：自己点検教学委員会で 2015 年度 10 月時点での改善状況を自己点検・評価委員会に報告し、今後の進め方について学長より提言があった。この提言を基に改善に努めるとともに、2016 年 7 月末の改善報告書提出に向けて、最終調整に入る。</p> <hr/> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：大学基準協会認証評価受審結果への対応 D：大学基準協会認証評価受審結果への対応する事項の改善 C：自己点検教学委員会より自己点検・評価委員会に提出された「改善報告書」に対する学長からの提言 A：学長の提言に基づき、大学基準協会に提出する「改善報告書」の最終調整を行う</p>
<p>到達目標 3. 教学 IR について活用の可能性を探り、可能なものからデータの作成を行う 対応する中・長期計画の項目：6. 計画推進等の体制 (3) IR を活用したマネージメント</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：自己点検教学委員会では、教学における IR を活用した内部質保証について学内の認識を高めるためにお茶の水女子大学・半田教授を招聘し「教学 IR・GPA・内部質保証システム」と題した講演会を開催した。具体的な IR に関する取り組みは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GPA の学科ごとの分布図を作成し、各学科に提供した。</li> <li>・ 通信教育課程の過去の在学生、現在学生に関するデータを分析し、理事会の資料として提出した。</li> <li>・ お茶の水女子大学が中心となって立ち上げた「教学比較 IR コモンズ」への参加が決まった。</li> </ul> <hr/> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：教学 IR の活用について検討する D：教学 IR についての情報収集、講演会の開催、各種データの作成 C：到達目標に対する今年度の成果を検証 A：検証結果より次年度に向けての改善点を確認し、新規事業に向けての計画を立案する</p>

2015 年度 到達目標点検シート

部署名： 総務部

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わる P D C A サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと I R を活用したエビデンススペースによるプロセスの可視化

(「2. 中・長期計画への対応」「3. その他」の各到達目標に個別に記載)

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p>到達目標 1. 平成 27 年 4 月の学校教育法改正に対応し、学内諸規程の整備を推進する</p> <p>対応する中・長期計画の項目：4. 管理運営 (1) ①・②、(2) ①・②</p> <p>今年度の達成状況： <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p> <p>点検と今後の展望：学校教育法改正の趣旨を踏まえ、平成 26 年度から引き続き学内諸規程について所要の規則等改正を行った。</p> <p>内部質保証に関する目標 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化 (プロセスの図や説明を記載)</p> <p>P：学校教育法改正に対応し、学内諸規程の改正手続を確認し、改正案を策定する</p> <p>D：諸規程それぞれの改正手続に則り、改正する</p> <p>C：文部科学省による学校教育法改正への学内諸規程対応状況調査により、学内諸規程の整備状況を点検する</p> <p>A：未整備の規程がある場合は、速やかに整備する</p>
<p>到達目標 2. 大規模地震及び災害に備えて、学園構成員への防火・防災に対する意識の向上と定着化を図るとともに、マニュアルの整備、防災備蓄品の充実、防災通報設備の強化等、防火・防災体制の整備、事業継続計画の策定を進める</p> <p>対応する中・長期計画の項目：4. 管理運営 (3) ①</p> <p>今年度の達成状況： A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p> <p>点検と今後の展望：消防法に基づく防災訓練を実施した。併せて、防災訓練当日に学生対象安否確認テストを実施した。</p> <p>目白キャンパスの訓練では、自衛消防隊の職員が防火・防災に関する施設・設備を実地確認し、災害時に対応できるよう職員の意識の向上を図った。また、専任職員が防災センター要員講習及び自衛消防業務講習を修了し、専門的知識を取得した。</p> <p>西生田キャンパスにおいては、防火管理者を増やし、西生田キャンパスの防火・防災体制を強化した。今後、訓練等においてキャンパスに従事する職員の意識向上に努め、更なる防火・防災体制を強化していく。</p>

<p>また、防災備蓄品について、両キャンパスにおいて学生を交えて非常食を選定し充実を図った。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：総務課、西生田総務課において、防災アドバイザーの指導に基づき計画する。また関係部局の協議により、防災備蓄品の管理計画を策定する。</p> <p>D：防火管理者、自衛消防隊員との連携により防災訓練を実施。防災備蓄品の管理計画に基づき、備蓄品の更新・充実を実施する</p> <p>C：担当部局及び防火管理者により、実施内容の点検を行う</p> <p>A：未達の事項があれば、a年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上でb次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを行う</p>
<p><b>到達目標 3. 警備関連施設を含め、新しい目白キャンパス計画を踏まえた警備体制の見直し・強化を図り、安全な学園環境の維持に努める</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：4. 管理運営（3）③</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：PTA（泉会）の協力を得て、目白キャンパス正門警備員室の防犯カメラシステムを更新し、キャンパスの安全性を高めた。来年度からは学寮地区も大学地区と同一の警備会社に委託することとし、学園全体で警備体制の連携・強化を図ることとしている。</p> <p>新しい目白キャンパス計画に対しては、セキュリティラインや警備体制を踏まえた計画となるよう要望書を提出した。安全な学園環境維持のため引き続き施設部門と検討していく。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：関係部局の協議により、警備体制の強化を計画する。目白キャンパス計画を踏まえた警備体制案については、総務課が立案する</p> <p>D：関係部局の連携により、警備体制を強化。新キャンパス計画については、キャンパス構想部会での計画検討に反映する</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：点検結果を基に、a年度内の更なる遂行を図る</p>
<p><b>到達目標 4. 本学が所属する「多摩区・3大学連携協議会」が10周年を迎え、例年行われている共同事業や3大学がそれぞれ行う記念事業として行う「知的探訪」において、学生の参加を得ながら、本学の知的財産を公開し、広く本学の魅力を知ってもらう</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画—一生を支える生涯教育（2）</p>
<p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：11月に西生田キャンパスで「知的探訪」を行い好評を得た。また専修・明治各大学と共に10周年の記念リーフレットを作成し、多摩3大学コンサート時に多摩区民に配布した。リーフレットでは、川崎市市長及び3大学長によるトップ懇談とこれまでの活動を掲載し、今後の地域連携のあり方について示すことができた。</p>



<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：西生田総務課が、多摩区・3大学連携協議会と協議して立案する</p> <p>D：多摩区・3大学連携協議会の枠組の中で、地域貢献を行う</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：点検結果を基に、b次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを行う</p>
<p><b>到達目標 5. キャンパス統合後の西生田キャンパスにおける地域連携のあり方について、本学が所属する「多摩区・3大学連携協議会」への参加のあり方をはじめ、検証・検討を開始する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画—一生を支える生涯教育（2）③</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：「多摩区・3大学連携協議会」の場において様々な問題提起がなされ、今後のあり方について議論が開始されており、引き続き検討を継続して行っていく。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：西生田キャンパス・教育構想部会を中心に関係部局と協議する</p> <p>D：西生田キャンパス・教育構想部会で他大学事例などの収集を踏まえ、具体的な今後の検討を行う</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：点検結果を基に、b次年度の目標化を行い、検討を継続する</p>
<p><b>到達目標 6. 業務委託先の選定方法、発注方法の見直しを行う</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：5. 財政計画（1）③</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：今年度 10 月 1 日に制定施行された役務等調達管理細則に基づき、見積合せによるほか、来年度からの調達について、入札、企画提案型競争入札等により、調達価格の低減を行った。今後は、入札、企画提案型競争入札の対象範囲を更に拡大し、調達価格のいっそうの縮減を図っていく。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：各担当部局において、契約サイクル、発注時期を確認する</p> <p>D：役務等調達管理細則に基づき、業務委託先の選定、発注方法の見直しを行う</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、財務委員会で全体の状況を点検する。その上で、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：点検結果を基に、a年度内の更なる遂行を図る</p>
<p><b>到達目標 7. 学園の主たる情報発信手段である公式ホームページについて、運用体制改善への見直しを継続するとともに、内容の刷新・スマホ特設サイトの充実を果たす</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：4. 管理運営（5）①</p>

<p>今年度の達成状況： <input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C</p> <p>点検と今後の展望：スマホ特設サイト・志願者向けサイトを新たに開設した。トップページのデザイン全面刷新及び動画の導入により、志願者にとって本学のイメージを把握しやすくした。運用体制の変更により、安定運用を行っている。また、天災等緊急時対応としてのツイッター導入により、即時性を向上し運用負担を軽減した。今後は、学部学科ページを改定し志願者へのアピール強化に取り組む。運用体制は安定しているとはいえ人に依存するところが大きいので、組織的な対応の充実を図る。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：広報 WG（学長室プロジェクト）において、ホームページ刷新案を策定する</p> <p>D：広報 WG と担当部局との連携により、ホームページ刷新、内容の充実を行う</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、広報 WG で点検する。その上で、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：未達の事項があれば、a 年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上で b 次年度の目標化、c 目標の見直しのいずれかを行う</p>
<p><b>到達目標 8. プレスリリースの方法を改善し、PR 効果・情報発信力を高める</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：4. 管理運営（5）②</p>
<p>今年度の達成状況： A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C</p> <p>点検と今後の展望：プレスリリース支援ツール「広報太郎」を軌道に乗せ、省力化を果たした。今後は、記者への到達率を上げるため、さらに内容・中身の改善を図る。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：担当部局において、プレスリリース改善案を策定する</p> <p>D：広報 WG（学長室プロジェクト）と担当部局の連携により、効果的なプレスリリースを行う。</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、広報 WG で点検する。その上で、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：未達の事項があれば、a 年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上で b 次年度の目標化、c 目標の見直しのいずれかを行う</p>
<p><b>到達目標 9. 広報誌「学園ニュース」の誌面刷新を引き続き実施、読者参加を推進する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：4. 管理運営（5）③</p>
<p>今年度の達成状況： A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C</p> <p>点検と今後の展望：附属校生徒の誌面登場等一定の読者参加も得たものの、更なる誌面改革・内容の充実に努めたい。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：担当部局において、学園ニュース誌面刷新案を策定する</p> <p>D：今年度新設された学園広報連絡会議（理事長・学長直轄）、広報 WG（学長室プロジェクト）と担当部局との連携により、学園ニュース誌面刷新、内容の充実を行う</p>

<p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、学園広報連絡会議（理事長・学長直轄）及び広報WG（学長室プロジェクト）で点検する。その上で自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：未達の事項があれば、a年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上でb次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを行う</p>
<p><b>到達目標 10. 学園各校園での新たな志願者獲得に向けて、即時のおよび中長期的の両面から入試広報を計画し実施する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画（2）②、 3. 一貫教育、生涯教育計画（5）、4. 管理運営（5）①</p>
<p>今年度の達成状況： <input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C</p> <p>点検と今後の展望：附属校園公式ホームページについて、来訪者が必要とする情報への易達化並びに魅力の更なる訴求という視点から問題点を洗い出し、デザインレイアウト調整を実施。12月1日にリニューアル公開した。今後は、大学ホームページとデザイン面での統一性を図りつつ、コンテンツの充実を目指す。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：今年度新設された学園広報連絡会議（理事長・学長直轄）及び担当部局において、各校園の志願者に対する広報計画を策定する</p> <p>D：学園広報連絡会議と担当部局との連携により、ホームページ、学校園案内等の内容の充実を行う</p> <p>C：実際の入学志願者数を元に担当部局が行う点検（数量的な分析を含む。）を踏まえ、広報WG（学長室プロジェクト）で点検する。その上で、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：点検結果を元に、次年度の行動計画を策定する</p>

### 3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 1. 目白・大学地区において、廃棄物の削減、及び廃棄物の分別の促進によるリサイクル率の向上を目指し、学園構成員の意識の向上と定着化を図る</b></p>
<p>今年度の達成状況： A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C</p> <p>点検と今後の展望：リサイクル率の向上を目指し、一部のゴミ置き場においてゴミ分別の掲示を更新した。来年度以降、目白キャンパス全体の更新を図る。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：担当部局で、廃棄物に関する管理計画を立案する</p> <p>D：予算に基づき、適正な管理を実施する</p> <p>C：実績値、委託金額を元に担当部局が行う点検（数量的な分析を含む。）を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：未達の事項があれば、a年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上でb次年度の目標化、c目標の見直しのいずれかを行う</p>

<p>到達目標 2. キャンパス内樹木について、近隣への影響を考慮した適正な管理を行い、自然環境の保持・整備を図る</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：西生田キャンパス内樹木について、近隣への配慮及び枝折れ防止の伐採と自然環境の保持の両立に努めた。枝折れ、倒木の恐れのある老木が増えてきているので今後も定期的なチェックを行い、安全管理に努める。</p> <p>内部質保証に関する目標 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：担当部局で、キャンパス内樹木の管理計画を立案する</p> <p>D：予算に基づき、適正な管理を実施する</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：点検結果を基に、a 年度内の更なる遂行を図る</p>
<p>到達目標 3. マイナンバー制度の適正な運用のための体制を整備する</p> <p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：関連規程を制定・整備し運用を開始した。今後、初年度のマイナンバー収集を完了した段階で振り返りを行い必要に応じて見直す。</p> <p>内部質保証に関する目標 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：担当部局で、規程制定・改正を含む運用体制を立案する</p> <p>D：規程制定・改正を経て、適正に運用する</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：点検結果を基に、a 年度内の更なる遂行を図る</p>
<p>到達目標 4. Vision120 に向けた職員の意識改革のための研修を実施する</p> <p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：役務等調達管理細則の制定に伴い研修会を実施しその必要性を含め制度を理解した。引き続き人件費を含めたコスト意識の向上を図る。</p> <p>内部質保証に関する目標 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：担当部局で職員研修計画を立案する</p> <p>D：事務局会議を経て、職員研修を実施する</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：未達の事項があれば、a 年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上で b 次年度の目標化、c 目標の見直しのいずれかを行う</p>
<p>到達目標 5. 有期雇用に関わる法律の改正に伴う関連する学内諸規程の整備と適正な運用を行う</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p>

<p>点検と今後の展望：任期付教員に関する規程を制定した。今後、関係する就業規則等の整備を進める。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：法令に基づき、担当部局で諸規程の制定案、改正案を立案する</p> <p>D：常任理事会で決定し運用する。必要に応じ教職員組合と協議を行う</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：未達の事項があれば、a 年度内の遂行を図ることを原則とし、それでも未達の場合は、未達原因の分析を行った上で b 次年度の目標化、c 目標の見直しのいずれかを行う</p>
<p><b>到達目標 6. ホームページ掲載や案内の配布によりインターネット利用寄付の周知を強化する</b></p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：創立 120 周年記念事業募金を開始した。その一環として、全卒業生、在籍在園生保護者の皆様への募金趣意書の送付、募金特設サイトの立ち上げを行い、インターネット利用寄付についても周知している。今後、募金のご依頼そのものをいっそう広く周知していく。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：創立 120 周年記念事業募金の実施計画の中で具体案を策定する</p> <p>D：インターネット利用寄付も、創立 120 周年記念事業募金の実施の一環として位置づけ、合わせて周知する</p> <p>C：担当部局が行う点検を踏まえ、自己点検法人委員会で点検内容を確認する</p> <p>A：点検結果を基に、a 年度内の更なる遂行を図る</p>

2015 年度 到達目標点検シート

部署名： 管理部

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによるプロセスの可視化

（「2. 中・長期計画への対応」「3. その他」の各到達目標に個別に記載）

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 1. 目白キャンパスグラウンドデザインに基づく建物等基本設計を推進する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 (1) ①</p> <p>今年度の達成状況： <input type="text" value="A"/> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：今年度は7回のキャンパス構想部会及び7回のキャンパス構想ワーキングを開催し、基本設計に向けた協議を行った。基本設計条件書については学内へ公開し、意見を集約し、設計者へフィードバックを行った。</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：キャンパス構想部会及びその下に置かれたキャンパス構想 WG において計画策定する</p> <p>D：理事会の方針決定に基づき管理部が設計者と連携して実施する</p> <p>C：随時、進捗及び修正事項をキャンパス構想部会及び WG を通じて学内へフィードバックする</p> <p>A：学内方針を設計者にフィードバックし、基本設計に反映させる</p>
<p><b>到達目標 2. 教育・研究環境の充実のための情報（ICT）基盤の高度化を推進する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画 1-3 キャンパス計画 (1) ①</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <input type="text" value="B"/> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：ICT 設備の計画については検討の途中である。今年度は補助金を利用して百年館4階のマルチメディア設備、西生田 LL 設備の更新を行った。</p> <p>また、要望の多い Wi-Fi の拡充については機器の性能が向上するとともに価格が低下したことから、今後は優先度を上げて順次進めることとした。</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：システム企画課、施設課を中心に ICT の中期計画を策定</p> <p>D：毎年の予算に反映されたものについて実施する</p> <p>C：毎年利用状況、技術の進歩、運用及び調達コストの低減をモニタリングする</p> <p>A：最新の技術等を勘案し安全・安定な状態を維持できるよう必要な更新計画を再策定する</p>

<p><b>到達目標 3. 障がい者対応を含む施設のアメニティ向上を行う</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画（4）③</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：学生対応部署等と相談しながら毎年改修箇所を検討している。今年度については特に実施はなかった。</p> <hr/> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：障がい者対応部署、関係委員会等からの要請に基づき改善計画及び予算確保を行う</p> <p>D：毎年の予算に反映されたものについて実施する</p> <p>C：担当部署及び学生等利用者からの意見をモニタリングする</p> <p>A：関連法改正を意識しながら必要な改善計画を再策定する</p>
<p><b>到達目標 4. 耐震診断及び耐震補強工事を実施する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：4. 管理運営（3）①</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：建物の耐震診断はほぼ終了しており、毎年学生の利用度の高いものから順次耐震化工事を進めている。今年度は成瀬記念講堂について耐震工事を行うため設計業者の選定を行い、設計作業を進めた。また、非構造部材の耐震化についても補助金を利用しながら推進している。</p> <p>今後も学生等が利用する場所で耐震化工事の済んでいない建物について予算の範囲内で耐震化工事を継続する。また、図書館については耐震工事を行わず建て替えにより建物更新を行う。</p> <hr/> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：施設課において建物耐震計画を策定する</p> <p>D：予算に反映されたものについて耐震診断及び耐震改修を補助金を利用して実施する</p> <p>C：毎年建物利用状況を見直し建物耐震計画を見直す</p> <p>A：見直しに基づき建物耐震計画を中・長期計画に反映させる</p>
<p><b>到達目標 5. 金融資産を増加させ、負債を減少させる</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：5. 財政計画（1）① ②</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：財政部会において中・長期財政計画を検討しており、予算編成にあたっては中・長期財政計画をもととした単年度の財政計画を財務委員会で協議し、理事会に諮り、それに基づき予算編成を行っている。120周年事業に向けて予定どおり金融資産は確保されている。</p> <p>財政部会においては定員の厳格化など想定される課題に基づき財政計画の見直しを毎回行っている。その結果については年度末に理事会に報告を行っている。</p> <hr/> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：財政部会において中・長期計画を策定する</p> <p>D：中・長期計画に基づき理事会において単年度の予算編成を行う中で財政状況を確認する</p> <p>C：毎年の決算及び予算をもとに中・長期財政計画を修正する</p>

<p>A：定期的（5年ごと）に中・長期財政計画を学内に公表する</p>
<p><b>到達目標 6. 収支パランスのとれた予算編成と適正な執行を行う</b>          対応する中・長期計画の項目：5. 財政計画（1）② ③、（2）① ②</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：財務委員会において中・長期財政計画をもととした単年度の財政計画、予算編成を行っている。編成にあたっては全予算単位に対しヒアリングを実施し、新規事業や見積額の精査を行った。その結果次年度予算においては事業収支において収入超過の予算編成を行うことができた。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：財務委員会において次年度財政計画、予算編成を策定する          D：理事会において財単年度の予算編成を行う          C：毎年予算の執行状況及び次年度予算について予算単位毎のヒアリングを行う          A：ヒアリングをもとに予算編成方針、執行状況を財務委員会にフィードバックする</p>
<p><b>到達目標 7. わかりやすい財務情報を公開する</b>          対応する中・長期計画の項目：6. 計画推進等の体制（4）</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：事業報告については毎年継続して表やグラフを使い、ステークホルダーにわかりやすい形式で作成している。理事会承認後速やかにホームページで事業報告全文を公開した。他大学の事業報告については随時確認し、さらに見やすい形式を検討している。今後も固定的にならず、ステークホルダーの理解を意識したわかりやすい財務状況報告を目指す。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：経理課において決算数値をもとに事業報告（財務の状況）案を策定する          D：理事会において事業報告を承認後、学内外に公表する          C：他大学の事業報告（財務の状況）を確認し、公開方法のありかたについて点検を行う          A：点検をもとにわかりやすい表記方法を検討し、次回に反映させる</p>

### 3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 1. 環境問題への対応のため機器備品類の学内循環を推進する</b></p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：今年度は機器備品類の学内循環については大きな進展はなかった。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：毎年、機器備品類の廃棄状況を確認し、学内循環推進の広報計画を検討する          D：具体的な手続き資料（パンフレット等）を配布する</p>



<p>C：年度末に機器備品類の廃棄（除却）状況を確認する</p> <p>A：利用可能な廃棄物品が多く見受けられる場合には、周知方法を再検討する</p>
<p><b>到達目標 2. 研究費で購入する物品の検収内容の見直しを行う</b></p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：毎回の不正防止計画推進部署会議において検収について課題確認を行っている。検収方法は教員に向けて文書及びイントラネットで公開するとともに研修会を開催し検収への意識高揚を進めている。今年度も過年度購入物品の取扱いなど問題が発見され、対応を関係部署間で協議した。結果は再発防止のため公的資金研究費の管理運営・監査委員会で報告を行った。</p> <p>-----</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：不正防止計画推進部署会議において検収方法の点検を行う</p> <p>D：新年度に配布する教員向け研究費予算の執行の手引に検収方法を明記する</p> <p>C：検収室において随時検収業務の点検を行うとともに、不正防止計画推進部署間で問題の共有を行う</p> <p>A：発見された問題について不正防止計画推進部署会議で協議し検収方法の見直しを行う</p>
<p><b>到達目標 3. 創立 120 周年に向けて募金体制を構築する</b></p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：120 周年募金については理事会での承認をもとに募金趣意書の発送を完了した。今年度は募金委員会は設置せず、受け入れ作業を進め、必要な情報については学長室会議へ報告することとした。募金受け入れの事務は経理課が中心となるが、広報や今後の企画などは関連部署が連携して作業を行った。</p> <p>-----</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：募金推進委員会を設置し、募金体制を構築する</p> <p>D：募金事務室を中心に関連部署とともに募金活動（広報、収納等）を行う</p> <p>C：募金推進委員会において募金状況を確認し計画との差があるときは必要な対策を協議する</p> <p>A：新たな対策を実施するとともに募金状況を学内外に広報し、更なる募金獲得を目指す</p>
<p><b>到達目標 4. 中高校舎の建物設備について改修工事を実施する</b></p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：</p> <p>今年度は修繕計画に基づき家庭科棟の大規模改修を行った。費用の全体像を明らかにするため大規模改修分として予定される工事とそれに併せて行う設備等の修繕工事の費用を財務委員会に提出し、財政計画に合わせた今後の修繕計画を改めて検討することとしている。</p> <p>-----</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：施設課において建物修繕計画を策定する</p>

- D：予算に反映されたものについて修繕を実施する
- C：毎年予算額とのバランスを確認するとともに追加で発生する案件を検討する
- A：費用について財務委員会の承認を経ながら修繕計画を見直し、実施する

2015 年度 到達目標点検シート

部署名： 学務部

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンススペースによるプロセスの可視化

(「2. 中・長期計画への対応」「3. その他」の各到達目標に個別に記載)

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標 1. 西生田キャンパスにおいて、英語の全学科必修実施に向け、計画の策定を行う

対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画

1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革

(3) 教員の総合力を生かした基盤的教育

①必修英語科目のプログラム作成と実施

今年度の達成状況： A ・ **B** ・ C

点検と今後の展望：人間社会学部の6月教授会において、2016年度入学者から基本科目の英語科目を、人間社会学部全学科の必修科目とすることを決定した。また、2016年4月の入学オリエンテーション期間に「プレズメント・テスト」を実施し、習熟度別英語クラスによる授業を行うことも決定した。人間社会学部の英語必修カリキュラム構築に関する学内の手続きを完了した。

今後は、キャンパス統合時の基盤的教育・外国語カリキュラムの充実にむけて学科科目との連携やグローバル人材育成の観点から、外国語カリキュラムの検討を進める。

内部質保証に関する目標 内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）

P：人間社会学部改革協議会の下に英語必修化ワーキングを設置し、英語必修化に向けての体制を構築

D：英語必修化ワーキングにおいて必修英語の内容、科目名、時間割等について検討依頼の実施

C：教務・学科目委員会において、学科からの時間割の検証、並びに英語担当学科における英語必修化に向けてのプレズメント・テスト等の検証

A：体系的なカリキュラムへの改善及び構築、他の外国語カリキュラムの改善

到達目標 2. ランゲージ・ラウンジにおける活動の活発化等により、授業以外の学修支援について強化を図る

対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画

1-2 大学の教育改革

グローバル化した21世紀社会をリードする女性の育成

<p>(1) 徹底した外国語教育</p> <p>2. 大学・大学院の教育研究計画</p> <p>(4) 学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実</p> <p>① 学生が自発的に学修する支援体制の検討</p> <p>② 学生ポートフォリオの構築</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：学園総合計画委員会の下に設置した学修支援部会において、ラーニング・コモンズWGを立ち上げ、ランゲージ・ラウンジをはじめとする本学のラーニング・コモンズの機能やその運営体制等を集中的に検討した。特に、学生が自発的に学修する支援体制については、在学生全員に英語eラーニングの受講を可能にするとともに、eポートフォリオを試行的に活用して、学生の英語学習の学修成果の把握に努めた。</p> <p>今後については、キャンパスグランドデザインにて設計された学生滞在スペース（主にラーニング・コモンズ）の運営・組織計画を立案するため、ランゲージ・ラウンジ及び目白キャンパスの図書館4階に新設されたラーニング・コモンズにおいて、学生への利用アンケートやアクティブ・ラーニング型授業の実施等を通して、ラーニング・コモンズによる学修支援を検証する。</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：学生の主体的・能動的学修の支援を推進する。</p> <p>D：学修支援部会、ランゲージ・ラウンジ運営委員会による各到達目標の実施とその運営</p> <p>C：学修支援部会、ランゲージ・ラウンジ運営委員会による学生及び教職員への利用者アンケート調査、学生・大学院生のラーニングサポーターへの支援者アンケート調査、他大学調査などによる問題点の洗い出し、かつ教育目標との関連性の検証</p> <p>A：新たなランゲージ・ラウンジ及びラーニング・コモンズの運用形態・運営組織、教育目標・方法の支援の改善</p>

### 3. その他

達成状況 A：A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p>到達目標 1. GPA 制度を活用した学生への個別指導の運営を支援する</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：2015年度は、1～4年次（留年生を除く）までの全学年に GPA 制度を導入した。また、今年度より、教授会での申し合わせに従い、GPA ポイントまたは学科の定めた基準による成績不振学生への個別指導を実施した。各学科では、個別指導の記録を保管するとともに、学部長会に個別指導の件数を報告した。今後については、成績不振学生を早期に認識して、各学科において個別の対応の他、カリキュラムの改善並びに指導方法についても検討する。</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p>

<p>P : GPA 制度を活用した学生への個別指導体制を構築する</p> <p>D : GPA あるいは学科の基準による成績不振学生への個別指導（面談等）を実施し、面談記録を保管する。学科は、教務委員会又は教務・学科目委員会に報告する</p> <p>C : 個別面談記録などを学科会議等で共有し、学生指導や履修の問題点や課題の洗い出しかつ面談効果の検証</p> <p>A : 個別指導体制の改善、教育方法の改善、教育課程の改善</p>
<p><b>到達目標 2. 公的研究費の適正な使用にかかる実質的な取り組みを履行する</b></p>
<p>今年度の達成状況 : A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望 : 2014 年度に改正した「日本女子大学公的資金研究費の管理運営・監査規程」の周知に努めた。また、コンプライアンス教育の充実、誓約書の徴収や内部監査によるモニタリングを実施して、不正防止に努めた。</p> <p>今後については、文部科学省の「研究活動における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づき、不正防止策の一層の強化を図る。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P : 大学が組織として不正使用の防止に関わり、不正使用が起こりにくい環境がつけられるよう対応の強化を図る</p> <p>D : 科学研究における不正使用防止のためのコンプライアンス教育の実施、内部監査の充実</p> <p>C : コンプライアンス教育のアンケート実施による理解の把握及び課題の洗い出し、内部監査によるモニタリング結果分析</p> <p>A : 大学関係研究費を含めた研究費の適正な使用に向けた取り組みの改善</p>
<p><b>到達目標 3. 研究活動における不正行為に対する関係者の意識浸透を図る取り組みを履行する</b></p>
<p>今年度の達成状況 : A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望 : 2014 年度に改正した「日本女子大学研究活動における不正行為への対応に関する規則」の周知に努めるとともに、2015 年 11 月に研究者を対象に専門家による研究活動における不正行為に関する講演会を実施した。</p> <p>今後については、文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」の趣旨を研究者に浸透させる様々な方策を検討する。また、大学院生に対する倫理教育のあり方を検討する。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P : 大学が組織として不正行為の防止に関わり、不正行為が起こりにくい環境がつけられるよう対応の強化を図る</p> <p>D : 研究者倫理向上のための研究倫理教育の実施</p> <p>C : 研究倫理に関するアンケートによる理解の把握及び今後の要望の洗い出し</p> <p>A : アンケート結果に基づく倫理教育の改善</p>

2015 年度 到達目標点検シート

部署名： 学生生活部

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンススペースによるプロセスの可視化

(「2. 中・長期計画への対応」「3. その他」に各到達目標に個別に記載)

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標 1. 学業継続のための経済的支援、障がいのある学生への修学支援等、多様化する学生への適正な支援・サポートを進める

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) ③

今年度の達成状況：  A ・ B ・ C

点検と今後の展望：成績不振の学生等で経済的な理由により学業継続が困難な学生について、奨学金による支援内容を見直した。障がい学生支援について、合理的配慮に基づく支援体制の構築と支援実施を進めた。

内部質保証に関する目標 内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化 (プロセスの図や説明を記載)

・経済的支援

P：経済的な理由による成績不審者等への対応をさらに改善するため、関係委員会で協議を行う

D：奨学委員会にて協議の上、奨学金規程等の整備を行い、奨学金のより柔軟な運用を実現した

C：関係委員会において各種奨学金の運用実績等を確認し、貸与奨学金の見直しと新たな給付奨学金の導入等、よりニーズに即した改善を図ることができた

A：さらに成績と経済的困難な状況との相関関係を確認し、より有効な奨学金の導入に向けた検討を行う

・障がい学生支援

P：障がい学生支援委員会のもと、障がいのある学生への合理的配慮に基づく適切な支援を実施する

D：学内各部署と連携し、障がいの程度、種類に応じた支援を実施できた

C：実施した支援内容については、障がい学生本人及びノートテイク等支援学生よりフィードバックを受け、改善に努めた。支援の現状確認のため各学科へヒアリング調査を実施し、関係委員会への報告を行った

A：新たな学園全体の支援体制構築を進め、合理的配慮に基づくスムーズな支援実施を行うことができるようにする

<p><b>到達目標 2. 学寮について新たなあり方を検討し、何らかの具体的な方向付けをする</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画（4）④</p>
<p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p><b>点検と今後の展望</b>：目白寮では、学寮生への利便性を上げるため、夏季休暇中8月の在寮を認めることができた。楓寮は閉寮年度を決定し、それに伴う対応等の検討を開始した。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>・ <b>目白寮</b></p> <p>P：目白寮では、寮生のニーズに合わせ夏季休暇中8月の在寮を学寮委員会で認めた</p> <p>D：通信教育課程との調整を行い、8月スクーリング期間中の共同生活をスムーズに実施できた</p> <p>C：期間中の空室の状況等から、居室提供者数の人数を再考する必要がある</p> <p>A：次年度居室提供数については、提供数を限定するなどの改善を行う</p> <p>・ <b>楓寮</b></p> <p>P：移転に伴う楓寮閉寮時期が理事会で決定したため、閉寮までの具体的検討として代替寮等の情報収集を行う</p> <p>D：民間業者等の代替寮、他大学寮の見学により、情報収集を行った</p> <p>C：代替寮等の対応案の作成を着手できた</p> <p>A：次年度は具体的なプランニングを行い、案を関係委員会等に提案し、具体的な対応の検討を開始する</p>
<p><b>到達目標 3. 社会情勢（就職環境）の変化に即した各種就職ガイダンス・ワークショップ等の企画・運営を行う</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画（4）⑤</p>
<p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p><b>点検と今後の展望</b>：今年度より学生の就職活動スケジュールが大幅に繰り下げられた状況に対応すべく、9月からテーマ別のワークショップを実施した。また、近年、選考過程でよく実施される「グループディスカッション」について、就職全体ガイダンス（就職希望者は必須参加）に新たに組み入れた。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：就職活動スケジュールの変更に伴う企業等の動向について、報道・各種情報交換会を通して情報を収集・分析し、支援内容に反映する</p> <p>D：学生のニーズに合致したテーマ別ワークショップを実施した。また、就職全体ガイダンスに「グループディスカッション」をテーマにした回を新たに組み入れ、計6回実施した</p> <p>C：ガイダンス等就職支援に関するスケジュールを関係委員会に確認、実施実績（参加者数等）を報告した。また、各種ガイダンス等の学生アンケートを分析した</p> <p>A：次年度に向けて、ワークショップのテーマ、その開催時期について検証する</p>

<p><b>到達目標 4. 協定大学・認定大学留学について、より多くの学生が充実した留学を行えるよう、周知活動、出願手続や奨学金制度、事前・事後指導等の見直しを行う</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画（3）②⑥</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：より多くの学生が留学できるよう新しい奨学金制度の具体的提案を、7月の学部長会に提出した。また、学長室直下のワーキングより国際化の方針の検討・提案も行った。最終的に大学として決定した方針に則って、留学制度・奨学金制度等を決定していく。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：他大学の留学奨学金制度調査、本学の協定大学留学者及び志願者実績と奨学金金額との相関関係等、データを収集し分析</p> <p>D：制度の変更により、留学学生を増やすことが可能なプランを策定した。</p> <p>C：国際化に関するワーキングが立ち上がり、大学としての方針を検討・提言予定。その方向性に則したプランへ修正し、国際交流委員会、学部長会、常任理事会での審議（協議）</p> <p>A：2019年度の協定大学留学より新しい奨学金制度を適用することを、大学案内や留学説明会での周知を開始し、留学志願者数の動向や進学説明会等での保護者や生徒の反応を確認していく</p>
<p><b>到達目標 5. 長期休暇を利用して、語学・専門・異文化体験等、目的に合わせて選択できる本学独自の海外短期研修のコースを充実させ、学生が海外で学ぶ機会をより多く提供する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画（3）①②</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：今年度、中国語・ドイツ語研修がスタートし、次年度実施に向けて英語語学短期研修の検討を、英文学科及び文化学科の教員を交えて開始した。次年度の春季休暇実施を視野に入れ、具体的に国・大学・プログラムを選定し、立案していく予定である。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：英語研修については、カナダ留学フェアに参加し、協定大学のマギル大学他、いくつかの大学の語学プログラムのヒアリングを実施済である。SAFにも提案の依頼をし、協定大学来訪時にも具体的に相談をする</p> <p>D：担当教員とともに研修を最終的に立案</p> <p>C：主催学科となる英文学科や文化学科の教員と企画の確認を行う</p> <p>A：次年度春季休暇に研修を実施し、改善点を確認の上、その後に活かす</p>
<p><b>到達目標 6. 外国人留学生・交換留学生・短期留学生等の受入体制を整備し、学生の満足度を上げ、留学生増につなげる</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画（3）⑤</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：日本語カリキュラムの見直し、課外活動の充実については達成された。今後は全体的な学修支援体制の整備が課題である。今年度中に国際交流委員会、関係各課、受入学科等と具体的な支援案を策定する。</p>



<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる HCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IRを活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：日本語カリキュラムや課外活動について、前年度より検討を開始し、新たな取り組みを計画</p> <p>D：9月より受入の交換留学生に対し、新プログラムを実施</p> <p>C：学生とのやり取りの中で、アカデミックなサポートが足りていないことが判明</p> <p>A：学修支援案を策定し、次年度受入時に実施。留学生アンケートにより効果を検証</p>
--

### 3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p>到達目標 1. 保護者向け就職関連情報の発信を強化する</p>
<p>今年度の達成状況： <input checked="" type="checkbox"/> A ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望： 泉会総会・学園祭で在学生の保護者を対象として、本学の就職状況・保護者の皆様の心構え等、就職説明会を実施した。次年度も引き続き実施の予定である。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる HCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IRを活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：社会情勢・就職環境の変化が学生の就職活動にどのような影響を及ぼすか検証する</p> <p>D：上記内容を反映して、泉会総会では説明会と個別相談会を、学園祭では説明会を実施した</p> <p>C：内容の充実とともに、開催の広報手段を再考する</p> <p>A：内容を精査し、次年度も説明会を実施する。また、本学ホームページの保護者向け情報の充実を図る</p>

2015 年度 到達目標点検シート

部署名： 通信教育・生涯学習事務局

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンススペースによるプロセスの可視化

（「2. 中・長期計画への対応」「3. その他」に各到達目標に個別に記載）

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 1. 教育の質保証に向けて学修過程等の現状を把握し、可視化への方策を検討する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画 (1) ⑨</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：通信教育課程学生の学修過程等現状把握のためレポート修得状況の可視化に着手した。その他年代別、地域別データを作成した。従来から実施している統計・アンケート等も利用し、次年度以降は教育の質保証に関わるデータの分析を進め、問題点を洗い出し、今後の展開について検討する。</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：各種アンケート、科目修了試験合格率、レポート修得状況などによる学修過程等の状況把握 D：各種アンケートの実施、成績・レポート評価による可視化 C・A：問題点を洗い出し、今後の展開について検討。学務委員会に提案し改善に繋げる</p>
<p><b>到達目標 2. 通信教育課程の今後の方向性に向け情報を整理しスケジュールを作成する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画 (5)</p> <p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：通信教育課程存続の可否に関する検討スケジュール・資料等を作成し、7月に存続が決定した。教育の改革内容については学務委員会をはじめとする各委員会の承認を経て実施に至った。次年度以降は特任教員も加わり通信教育課程の改革とともに推進する。</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P・D：通信教育課程の内部質保証に係る改革スケジュール原案作成</p> <p>1. 教育改革具体案を各学科にて作成（10月末まで）／2. 特任教員の採用を各学科にて実施（12月末まで）／3. 学生支援強化に向けた具体案を通信教育課にて作成（12月末まで）</p> <p>C・A：検討・決定</p>

<p>1. 2. は通信教育改革委員会（仮称）を中心に改革内容を学務委員会に報告。大学改革委員会、常任理事会、教授会の承認を経て実施する。／3. は特任教員による学生支援も含め学務委員会、通信教育改革委員会（仮称）に提案、決定の上次年度実施する。</p>
<p><b>到達目標 3. 学習の進まない学生や除籍・退学希望者の現状を把握し、在学生の満足度及び定着率を上げるための支援の方策を検討する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画 (4) ①</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：通信教育課程学生のレポート修得現状把握に着手した。次年度は各データを分析し、特任教員とともに更に学生への個別対応・支援を強化していく。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P・D：学習の進まない学生や除籍・退学希望者に対する個別対応・支援を実施</p> <p>C・A：学務委員会にて実施報告。改善点や要望等を取り入れ次年度に向けて学務委員会に提案</p>
<p><b>到達目標 4. リカレント教育課程において、企業との連携による講座を開講することにより、新たな学習機会の提供と再就職支援の強化を行う</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1)</p>
<p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：昨年度に引き続き、現代女性キャリア研究所・リカレント教育課程・合同会社西友共催で「セルフリーダーシップ・プログラム」を実施し、実地見学、グループワーク、プレゼンテーションを通して、より実践的な学習機会を提供した。</p> <p>また、大同生命保険株式会社寄付講座としてリカレント連携講座「女性と起業」を開講し、寄付講座の周知のため成瀬記念館に残された関連資料・写真による広報を行い、新たな学習機会を提供した。</p>
<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P・D：「リカレント教育委員会」における科目実施計画策定の準備及び実施</p> <p>C・A：「リカレント教育委員会」に設ける「ステークホルダーとの意見交換」において、連携企業との打ち合わせを実施し、点検・評価、改善を行う</p>
<p><b>到達目標 5. 在学生向けに正課外として開講しているキャリア支援講座（資格取得・語学・就職活動支援）において、学習奨励を目的とした受講料優遇等を実施することにより、資格取得や語学力向上といった学生支援につなげる</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (1)</p>
<p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：学習奨励措置により今年も高い合格率を上げた「旅行業務取扱管理者対策講座」（「総合旅行業務取扱管理者」の全国平均合格率約 12%のところ、本学合格率は約 55%）に加え、2015 年度後期より「TOEIC®スタート講座」においても出席率と成績による受講料返還制度を実施し、基準点（550 点）を超えた者が昨年度の 3 名から 5 名に増加した。</p>

<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：「公開講座プログラム委員会」において、講座の企画計画を策定</p> <p>D：生涯学習センターにより計画に基づき講座を実施</p> <p>C：受講生アンケート結果や資格取得状況をもとに、講座内容の点検・評価を実施する</p> <p>A：生涯学習センター運用委員会において、改善提案を検討、審議する</p>
<p><b>到達目標 6. 公開講座事業において、文京区及び川崎市との連携を強化し、多様な形態の講座の提供を通じて大学の研究成果を地域社会に還元する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2)</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：文京区に対しては、文京区アカデミア講座への講座提供を通じ、本学の研究成果を地域の方々に還元した。川崎市に対しては、川崎市教育委員会連携講座へ西生田キャンパスの自然環境を生かした子ども向け講座や、附属中学教員による子ども向け講座を提供し、地域貢献に努めた。</p> <p>-----</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：「公開講座プログラム委員会」において、講座の企画計画を策定</p> <p>D：生涯学習センターにより計画に基づき講座を実施</p> <p>C：受講生アンケート結果や資格取得状況をもとに、講座内容の点検・評価を実施する</p> <p>A：生涯学習センター運用委員会において、改善提案を検討、審議する</p>
<p><b>到達目標 7. リカレント教育課程については、カリキュラムや課程制度の点検・改善、再就職支援の向上を図るとともに、この取り組みを周知する活動を展開する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2)</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： <b>A</b> ・ B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：修了生のほぼ 100%の就職率を維持、授業の効率と更なる質の向上を目指し、2016 年度より 9 月入学の募集を廃止し 4 月入学の枠の拡大することを決定し、文部科学省「職業実践力育成プログラム (BP)」の認定、厚生労働省「専門実践教育訓練講座」の指定を受け、女性の学び直しと再就職の支援を推し進めることができた。</p> <p>-----</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P・D：「リカレント教育委員会」における課程制度、カリキュラム、再就職支援の実施計画策定の準備及び実施</p> <p>C・A：修了時アンケートや 2 期目面談による意見の吸い上げや講師懇談会の実施により、制度の点検を実施する</p>

### 3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標 1. 生涯学習センター（西生田）で行っている子育て支援事業において、責任体制を明確にし、参加者確保のための運用形態の見直しを行い、育児支援を通じて大学の研究や教育の成果を地域社会に還元する

今年度の達成状況：  A  B  C

点検と今後の展望：子育て支援事業の参加料及び講師料の見直しにより参加者数を回復し、引き続き好評の心理相談とともに、心理学科の教育研究成果を地域に還元した。

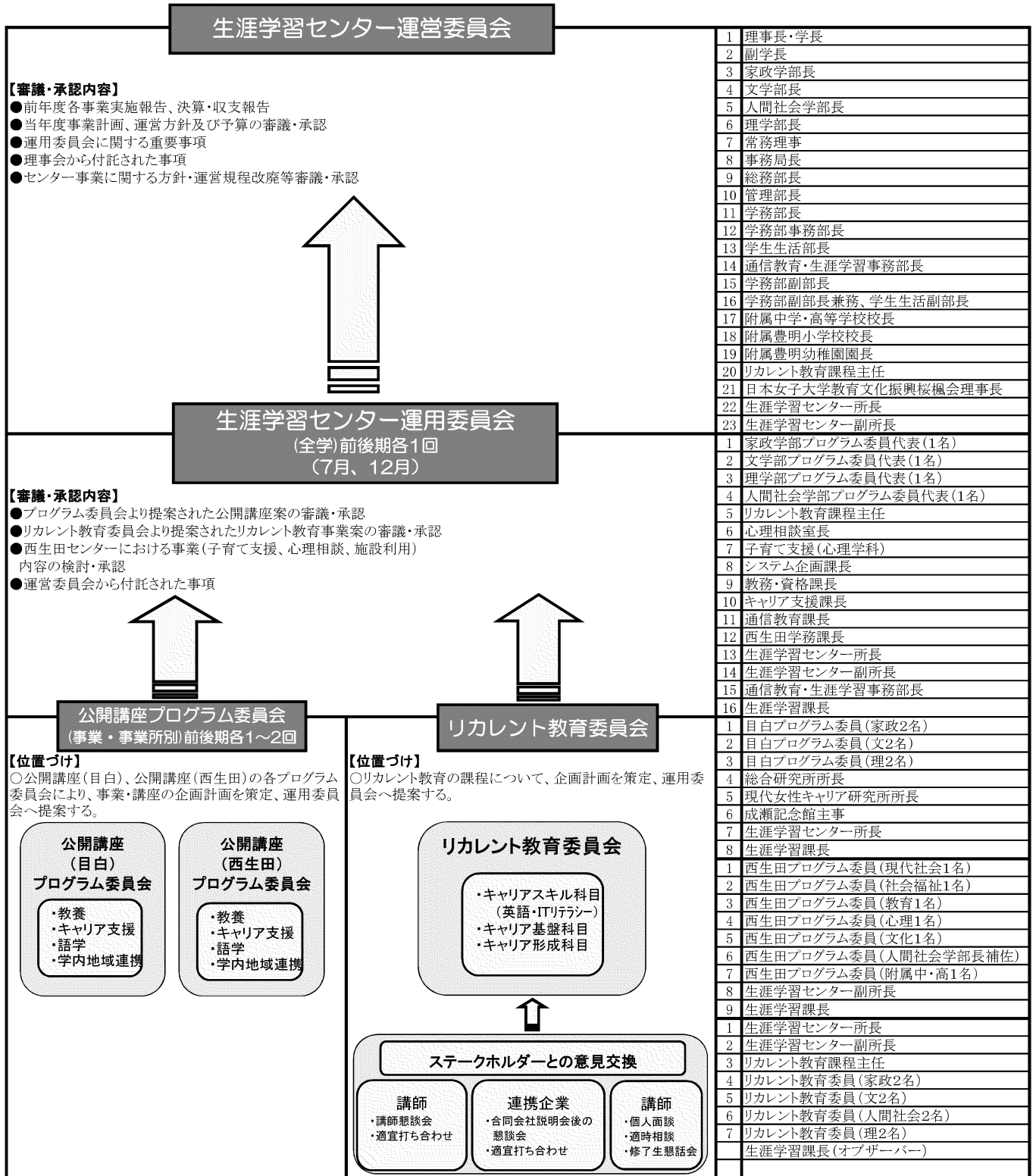
内部質保証に関する目標 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）

P：生涯学習センター運営委員会において当年度事業計画、運営方針および予算を審議

D：学科から承認された事業責任者と生涯学習センターが協力して活動を行う

C・A：運用委員会にて活動の点検・評価を行う

生涯学習センター事業組織図



### Ⅲ 附属機関

2015 年度 到達目標点検シート

部署名： 図書館

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンススペースによるプロセスの可視化

（「2. 中・長期計画への対応」「3. その他」の各到達目標に個別に記載）

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標 1. 今後の大学図書館の在り方を検討し、キャンパス構想のもとで図書館新設の計画を進め、キャンパス一体化に向けた準備を行う。

対応する中・長期計画の項目： 1. Vision120 に向けての将来計画 1-3 目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実 (1) ①② (5) ①

3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2) ③

今年度の達成状況： A ・ **B** ・ C

点検と今後の展望： 図書館総合計画に関する会議（図書館長・図書館職員）を 20 回（2 月 29 日現在）開催し、キャンパス構想や新図書館計画の検討を行い以下のとおり意見を提出した。新図書館の基本設計等について検討を継続中である。

6 月：グランドデザイン（ゾーニング）への意見、7 月：建物内構成並びに横断歩道設置に関する意見、9 月：20150924 新図書館図面への意見、11 月：キャンパス統合後の西生田キャンパス活用における図書館スペース確保のお願い、基本設計条件書 DRAFT への意見、12 月：20151202 新図書館図面への意見、2 月：20160217 新図書館図面への意見

また、キャンパスグランドデザインにおけるラーニング・コモنزの先行検証の場として、図書館目白 4 階に小規模なラーニング・コモنزを新設し運営を開始した。

内部質保証に関する目標 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンススペースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）

P：キャンパス構想部会及びその下に置かれたキャンパス構想 WG から提示される案を受けて図書館としての計画策定。学修支援部会及びその下に置かれたラーニング・コモنز WG において学生滞在スペースについて計画策定

D：各部会、WG のもとで到達目標の進展。小規模なラーニング・コモنزの新設・運営

C：各部会、WG からのフィードバック。ラーニング・コモنز利用者アンケート結果・分析。図書館運営委員会における意見聴取

A：各部会、WG から更新案を受けて図書館としての計画策定。ラーニング・コモنزにおける検証の共有化



到達目標 2. 図書館主催の講習会について、利用者の意見や日常的な利用者対応の経験を踏まえ、実施時期・内容・方法を検討するとともに、研究室へのお知らせを強化するなど効果的な広報に努め参加率向上を図る。授業時間内ガイダンスは、教員からの依頼内容を常に的確に把握し、各分野に沿った最新のコンテンツを提供する。

対応する中・長期計画の項目： 2. 大学・大学院の教育研究計画（4）①

今年度の達成状況： A ・ **B** ・ C

点検と今後の展望：図書館主催の講習会実施状況は、目白では「資料の探し方講習会」を31回実施し参加者は114名（2014年度23回41名、前年度比8回73名増）であった。2013年度から前期に加えて後期開催を開始し、2015年度は1月末までと前年度より期間を長く設定した。西生田では図書館主催の「資料検索講習会」は実施しなかったが、後述の教員からの依頼による授業時間内のガイダンスは1年生が対象のクラスが多く、その中で「資料検索講習会」の内容を含んだ基本的な検索講習を実施した。目白・西生田とも、日常より参考カウンターにおいて利用者が必要とする文献や情報を探し出せるよう個別対応で支援を行っている。

教員からの依頼による授業時間内の主題別ガイダンス実施状況は、目白：児童1回10名、食物2回11名、英文20回277名、史学3回116名、その他1回8名参加、西生田：現代社会4回81名、社会福祉8回127名、教育5回87名、心理3回34名、文化2回60名参加であり、実績が次の依頼につながっている。

**内部質保証に関する目標** 内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）

P：図書館課・西生田図書館課のサービス部門で実施計画策定。授業内ガイダンスは教員からの依頼を受け教員との打合せを通して実施計画策定

D：講習会、ガイダンスを実施

C：講習会受講者アンケート結果・分析、教員からのフィードバック、図書館ホームページ・学事報告・図書館だよりに実績報告

A：図書館主催の講習会については受講者アンケートを元にニーズを把握し、開催時期・内容を改善。授業内のガイダンスについては教員との打合せや学科との連携を今後とも密に行い、教員の意図・授業内容に沿った効果的なガイダンスを実施

到達目標 3. 学術情報リポジトリ運用指針を周知するとともに諸課題への対応を行い、登録件数増加を目指し、本学リポジトリの充実を図る。

対応する中・長期計画の項目： 3. 一貫教育、生涯教育計画（4）③

今年度の達成状況： A ・ **B** ・ C

点検と今後の展望：2014年4月に一般公開を開始した本学リポジトリは、2014年度末から2015年度初めにかけて紀要記事の登録が増え、登録アイテム数は2014年度末との比較で約10%強の増加、ダウンロード回数も漸増の傾向で利用されている（『図書館だより』No.154に記事掲載）。2015年度は登録される紀要の誌数も増となった。文部科学省「学術情報のオープン化の推進について（中間まとめ）」に、研究のエビデンスとなるデータの公開基盤としてリポジトリを活用すべきとの記述があり、本学リポジトリにおいても対応していく。

<p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：図書館内リポジトリ担当者、図書館内会議、図書館運営委員会にて計画を策定</p> <p>D：リポジトリ担当者、図書館運営委員会による到達目標の実施</p> <p>C：教授会、図書館運営委員会、コンテンツ提供者、リポジトリ利用者からのフィードバック。学園ニュース・図書館だよりに報告掲載</p> <p>A：文部科学省等の方向性、上記フィードバックを踏まえ、次期改善計画を策定・実施</p>
--

### 3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 1.</b> 学修環境向上のため、目白・西生田閲覧スペースの無線 LAN 並びに目白 4 階の新閲覧スペースについて周知を図り活用を促進する。</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p><b>点検と今後の展望：</b> 図書館目白 4 階の新閲覧スペースは、キャンパスグランドデザインにおけるラーニング・コモنزの先行検証の場並びに現在の学生の学修支援の場として、小規模なラーニング・コモنزとして整備された（11 月 25 日開設）（『図書館だより』No.154 に記事掲載）。可動式机・イス、電子黒板等の機器類に加え、学部 3・4 年生、大学院生が在席して学修支援を行うラーニング・サポーター制度を開始した。当スペースの周知のため、教員による授業利用、ミニ講座も実施している。開設から 2 月 15 日まで 57 日間で入室者数は 974 名（1 日平均 18 名）である。</p> <p>目白・西生田閲覧スペースの無線 LAN については、図書館ホームページや掲示により周知を図り、徐々に浸透を図った（『図書館だより』No.152 に記事掲載）。</p> <p>次年度は、目白のラーニング・コモنزについて年度当初より学科を通した広報を行うなど入学時からの利用を促し、西生田図書館の環境整備にも取り組み、更なる利用拡大を図る。</p> <p>図書館入館者数（2015 年度 4 月～1 月統計）は、前年度比で目白は 98,243 人（2014）→101,898 人（2015）で約 4%増、西生田が 47,908 人（2014）→53,073 人（2015）で約 10%増となっており、無線 LAN 等を含め図書館内の学修環境向上が利用者増につながっている。</p> <p><b>内部質保証に関する目標</b> 内部質保証に関わる PDCA サイクルまたはこれに代わるしくみの見直しと IR を活用したエビデンスベースによりプロセスの可視化（プロセスの図や説明を記載）</p> <p>P：学修支援部会及びその下に置かれたラーニング・コモنز WG、図書館内会議にて計画策定</p> <p>D：小規模なラーニング・コモنزの新設、学務部と連携した運営</p> <p>C：利用者アンケート結果・分析、ラーニング・サポーターアンケート結果・分析、泉会、図書館運営委員会からの意見聴取。学修支援部会、ラーニング・コモنز WG による検証</p> <p>A：目白のラーニング・コモنز活用、西生田の環境整備による学修支援推進</p>
--

## 2015 年度 到達目標点検シート

担当： 成瀬記念館

## 1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDC Aサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンススペースによるプロセスの可視化

- P 規定集による規定に基づき策定された中・長期計画に基づき、当該年度の事業計画を策定、実施計画に落とし込む→運営委員会による承認
- D 実施計画に基づき実施する（展示・出版・その他）
- C 結果報告→運営委員会にて検証
- A 検証結果を元に改善計画を策定→運営委員会で検討

## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

## 到達目標 1. 展示を通して本学の歴史や教育理念を伝える

対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画

1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (7)学園アイデンティティの確立

今年度の達成状況：  A ・ B ・ C

点検と今後の展望：常設展示および年間4本の企画展示のすべてにおいて、本学の歴史や教育理念を伝えたという点で達成したといえる。しかし、学園アイデンティティの確立は一朝一夕に成し遂げられるものではないという性質上、継続的に取り組むべきものである。

## 3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標 2. 成瀬記念館は1984（昭和59）年10月に創立者の記念館として開館、1990年に博物館となり、2004（平成16）年度に策定された中・長期計画では新たにアーカイブズとしての機能拡大を求められている。成瀬記念館のこれら3つの使命のうち、創立者の記念館としては、昨年度に引き続き成瀬仁蔵関連書簡集の編纂を進める。刊行は成瀬没後100年にあたる2019年を予定している

今年度の達成状況：  A ・ B ・ C

点検と今後の展望：2019年（2018年度末）に刊行予定の書簡集（第1冊）の翻刻はほぼ完了し、編集作業に取り掛かっている。引き続き残りの書簡の翻刻を進めつつ、第1冊の編集作業を行う。

<p>到達目標 3. 第 2 に学園全体の博物館として、今年度は特別展示「日本女子大学に学んだ児童文学者たち」を開催、児童学科の協力も仰ぎ、卒業生の活躍に光を当てる</p>
<p>今年度の達成状況： <input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C</p> <p>点検と今後の展望：児童学科、卒業生・教員およびご遺族より資料の提供を受け、充実した展示を開催することができた。本展を機会に寄贈された資料も多く、今後個別に取り上げることも可能。</p>
<p>到達目標 4. 第 3 の大学アーカイブズとしては、2021 年の成瀬記念館収蔵資料の全面公開をめざし準備を進める。昨年度刊行した『成瀬記念館収蔵資料目録 1 旧成瀬記念室資料』に引き続き、収蔵資料目録 2 の刊行準備を進める。また資料の公開にはシステムの構築と資料の保管場所・閲覧スペースの確保が必須であることを学内に訴えていく</p>
<p>今年度の達成状況： A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C</p> <p>点検と今後の展望：収蔵資料目録の刊行準備は、「広岡浅子展」の比重が大きすぎたため進んでいない。ただし『広岡浅子関連資料目録』を刊行。場所の確保については Vision120 で取り上げられなかったため、引き続き学内に訴えていく。現在、学内外の研究者が資料を閲覧できる場所はないため、事務室の机を使用しているが、閲覧者・館員双方に支障がある。</p>
<p>到達目標 5. また、学園史の発信を積極的に進める。特に今年度は広岡浅子に関連した情報発信に努める。当館の展示・刊行物のほか、学外の媒体（テレビ、雑誌、ムック本等）に協力、活用する</p>
<p>今年度の達成状況： <input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C</p> <p>点検と今後の展望：ドラマの影響は予想をはるかに上回ったため、広岡浅子および本学の認知度は大きく上がったと思うが、通常業務に支障が出るなどの弊害もあった（1 か月の来館者が例年の 1 年分を上回った）。また、本学学生や受験生にどれほどの効果があったかは未確定。広岡浅子およびそこから派生するテーマについては、今後も取り上げていきたい。</p>

## 2015年度 到達目標点検シート

担当： 総合研究所

## 1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDC Aサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンススペースによるプロセスの可視化

内部質保証に関する目的

- P. 「日本女子大学総合研究所 規則」「日本女子大学総合研究所 研究内規」
- D. 総合研究所に提出する各研究グループの研究計画に基づいた研究の実施、研究会の実施、年1回以上の公開研究会・シンポジウムの実施。
- C. ①研究成果の確認：各研究課題での研究、研究課題2年目グループの研究発表会と質疑応答、『総合研究所ニューズレター』における研究発表会の内容掲載、研究終了後の『総合研究所紀要』での研究内容に関する論文の掲載。学期末に総合研究所に提出する1年間の研究の進捗状況の報告。  
②刊行助成に関して：応募してきた原稿についての複数の審査員による厳正で公正な審査。そのための審査員の選考と審査表の配布。
- A. これらの研究成果の確認と刊行助成の選考に関して、「日本女子大学総合研究所 規則」に基づく運営委員会での検討、点検し、自己点検を行う。

## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標1. 日本女子大学の大学構成員が互いに協力し合う研究の拠点となるよう幅広く研究員を募集する

対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画

1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革 (6)特色ある一貫教育の実現

今年度の達成状況：  A  B  C

点検と今後の展望：小学校、中学校やキャンパスを越えた学園の幅広い構成員からの研究課題への応募が複数あり、一つの課題に向かって、学園全体の構成員が互いに協力し合って研究する拠点としての役目を担っている。この状況を維持するべく、さらなる広報が必要である。

到達目標 2. 教員の研究内容のよって社会に貢献するため、刊行助成制度への応募を奨励する

対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画

1-3 キャンパス計画 目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実 (3)地域連携・社会貢献型教育研究の促進

今年度の達成状況：  A  B  C

点検と今後の展望：刊行助成にたいして両キャンパスからの応募があり、今年度、2 件の助成を決定することが出来た。また、研究課題の中には研究内容が、目白（雑司ヶ谷）、生田地域に関する、また、地域と連携している内容のものが含まれており、地域連携していると言える。刊行助成への応募、研究課題への応募がさらに増えるように、この総合研究所の広報に引き続き務める必要がある。

2015 年度 到達目標点検シート

担当： 現代女性キャリア研究所

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDC Aサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンススペースによるプロセスの可視化

文科省プロジェクトを中心として運営した。  
年間計画に従って事業を進め、毎月1回の所内会議、年3回の運営委員会、年3回のプロジェクト会議、年1回のプログラム委員会にて、進捗状況・予算執行状況の確認および調整をはかった。最終的には、年間計画の完了、予算の適正執行を確認した。

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 1. 就業を中断した女性を対象とした教育プログラムの開発をおこなうとともに、再就職への第一歩をふみ出すための意識改革やスキルアップを支援する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育(1)キャリア開発とリカレント教育課程</p> <p>今年度の達成状況： <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p> <p>点検と今後の展望：私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の一貫として再就職をめざす女性のための教育プログラムを開発した。今後も引き続き再就職支援として意識改革やスキルアップに力を入れる。</p>
<p><b>到達目標 2. キャリア教育プログラムの策定およびキャリア教育の授業において講師及び参考図書</b> <b>の推薦</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 女性の活躍を支援するキャリア教育 (2)女性の主体的な生き方を実現するためのキャリア教育 ②現代女性とキャリア専攻及びキャリア女性副専攻の科目の検討</p> <p>今年度の達成状況： A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p> <p>点検と今後の展望：キャリア教育プログラムの策定については来年度申請予定のプログラムに盛り込む予定。教特の講師・参考図書推薦は例年通り実施、来年度も引き続き実施する。</p>
<p><b>到達目標 3. 外国人留学生のインターンシップを受け入れ、世界で活躍しうる女性の資質をのばす</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 「自学自動」「自念自動」を実践する女子教育 (4)リーダーシップ・独創性・協心力を発揮しうる女性の資質をのばす教育活動、研究活動、社会貢献活動</p> <p>今年度の達成状況： <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p> <p>点検と今後の展望：オランダ・ライデン大学のアネット・ズワート氏を4月から6月の3ヶ月間受け入れ、研究の支援とともに、学科の授業などにおいてオランダの働く女性の実情などの講義をした。2016年度は香港中文大学のDr. Song Jingの受け入れが決定している。</p>

3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p>到達目標 4. 働く女性のためのネットワークづくり</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：東京女子大学との共催による働く女性のためのネットワークづくりを実施するとともに、人間社会学部現代社会学科の卒業生と現役の学生との交流会を学科と共催で実施、いずれも参加者から高い評価をうけた。</p>
<p>到達目標 5. 経営者団体にインタビューをし、女性の活躍支援や再就職に関する意見交換をおこなう</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：東京中小企業同友会の女性メンバーと女性の活躍支援や再就職支援についての意見を交換した</p>
<p>到達目標 6. 再就職をめざす女性のためのセルフリーダーシップ・プログラムの実施</p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ B <input checked="" type="checkbox"/> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の一貫としてリカレント教育課程と協力し、合同会社西友の協力をえて、受講生を対象としたセルフリーダーシップ・プログラムを実施した。</p>

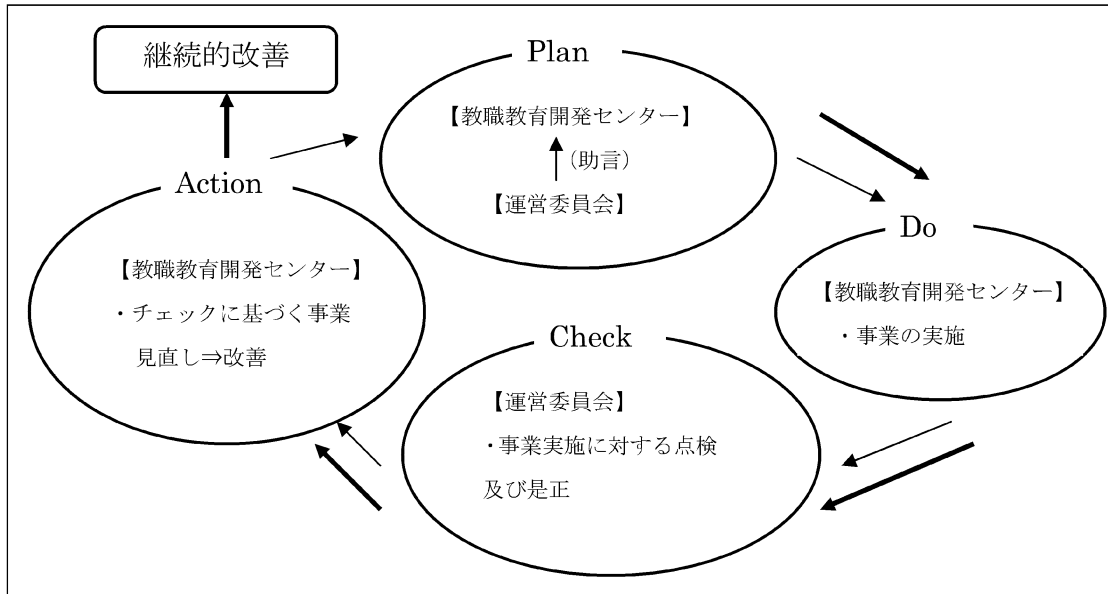


2015 年度 到達目標点検シート

担当： 教職教育開発センター

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDC Aサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化



2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標 1. 女性教員養成に長い歴史と実績をもつ本学の長をふまえて、教職に就いている現職卒業生を支援する。そのために、免許状更新講習及びワークショップの実施、メールマガジンの発行等を行う

対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育

(1)キャリア開発とリカレント教育課程

今年度の達成状況：  A ・  B ・  C

点検と今後の展望：当初の計画通り、以下の事業を実施し、上記目標を達成した。

- (1) 免許状更新講習：2015年8月17日(月)～21日(金)、必修領域講習及び選択領域講習を実施した。受講者はのべ314名で、うち卒業生は191名。更新講習開始以来、卒業生数は増加し続けている。また、卒業生同士の情報交換及び旧交を温める機会として、講習期間中に「受講者交流会」を開いた。
- (2) ワークショップ:①教職員のための教育法規 2015-学校事故を考える-(2015年7月4日(土))、②身近なもので理科実験(2015年10月24日(土))、③授業の組み立てに必要なHOW TO(2015年12月12日(土))を実施した。
- (3) メールマガジン：卒業生ネットワーク「カモミール net」登録者約760名に月1回発行。

この他、再就職を希望する卒業生に対しては、就職情報を随時配信している。

【今後の展望】

- 免許状更新講習は、2016年度より新たに「選択必修領域講習」が新設されるため、開講講習数を増やすことになる。講習数増には運営上の課題もあるが、質量共に満足度の高い講習を提供することで、卒業生への支援を充実させることにつながる。
- ワークショップは、多忙な現職教員の参加を促進する方策を一考したい。
- メールマガジンは、センターからの情報発信ツールとしてだけでなく、卒業生からの情報発信ツールとしても活用できる工夫をしていきたい。

到達目標 2. 上述の特長をふまえて、教職を目指している学部生や院生を支援する。そのために、  
教員採用試験講座及び専門家による日常的な指導・助言の内容を充実させる

対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画

(1) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の実施と教育の質保証

②教職課程カリキュラム及び運営体制の見直し

今年度の達成状況：  A ・ B ・ C

点検と今後の展望：当初の計画通り以下の事業を実施して、目標を達成した。

- (1) 教員採用試験講座：①教員採用試験対策講座（2015年3月7日（土）～4月25日（土）計8回）、②ブリッジ講座（5月14日（木）、6月11日（木）、7月16日（木）、7月23日（木）計4回）、③2次試験直前対策講座（8月1日（土）、8月18日（火）計2回）、④教員採用試験プレセミナー（11月12日（木））、⑤自主学習会（月2～3回、木曜日午後）
- (2) 指導・助言：教職志望の学生に対して、センター専任教員、同非常勤職員（元公立学校校長等）、児童学科特任教授が教員採用試験及び就職に関する指導・助言を日常的に行った。特に、東京都以外の元公立学校長を非常勤職員として迎える等、体制を整えながら受験地の多様化に合わせてきめ細やかな対応を行った。

【今後の展望】

- 教職を志望する1,2年生が、採用試験受験までモチベーションを維持できるよう、「プレセミナー」や「自主学習会」等を実施してきたが、「早目の準備」と「仲間づくり」を実現する支援が今後も求められる。
- 専門家による日常的な指導・助言を充実させるには、人的配置のさらなる充実が求められる。

3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標 3. 「教職教育開発センター 年報」を刊行する

今年度の達成状況：  A ・ B ・ C

点検と今後の展望：「教職教育開発センター年報 第2号」は2016年3月刊行を目指し、編集作業が進行中。上記目標は達成される見込み。

2015 年度 到達目標点検シート

担当： 生涯学習センター・リカレント教育課程

1. 内部質保証に関する目標

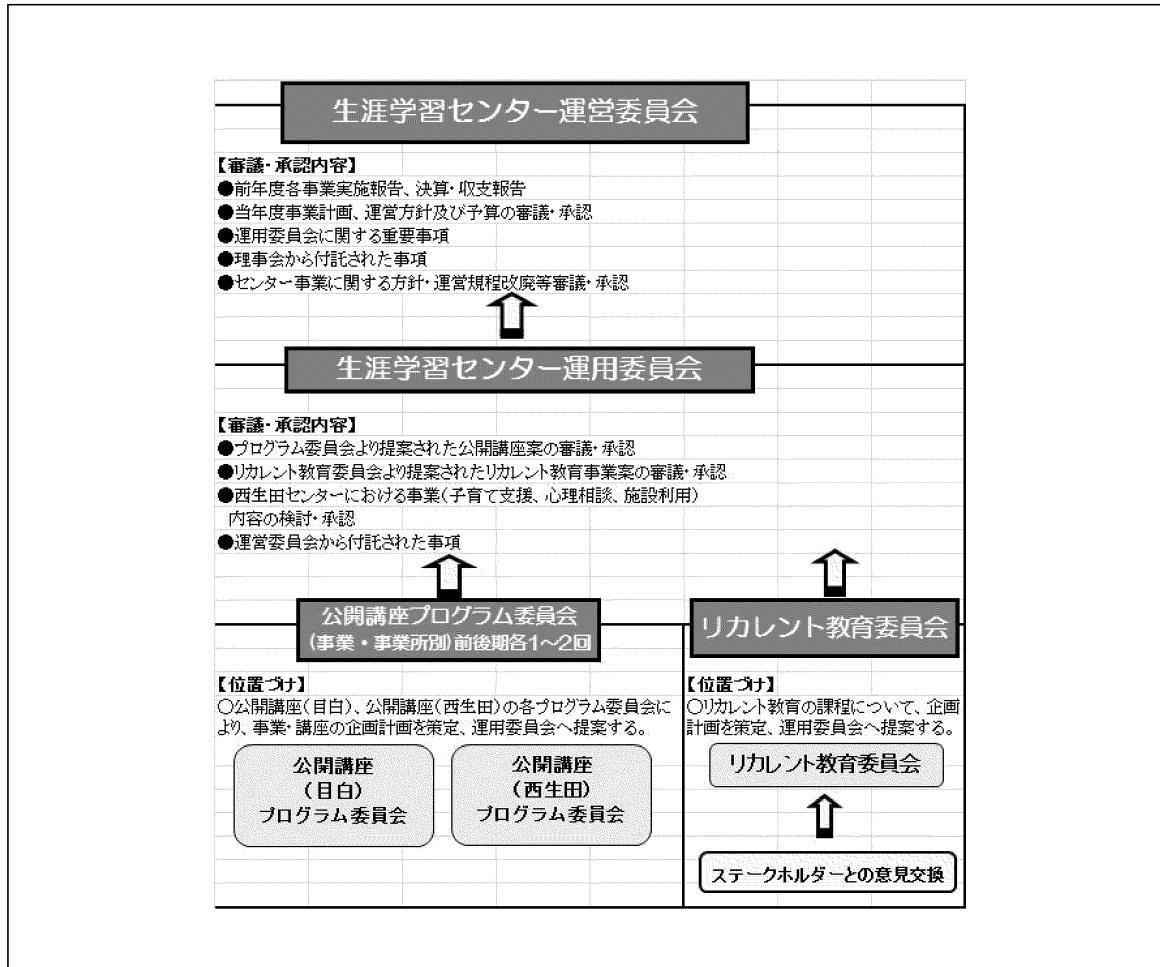
内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化

【生涯学習センターの設置目的】

本センターは、日本女子大学及び附属各校・園の伝統と特質を生かしつつ、本学の知的財産・教育的資産を社会に開放し、学内外の生涯学習活動の連携を図り、推進することを目的とする。

【設置目的実現のためのPDCA】

- P** ・生涯学習センター運用委員会および生涯学習センター運営委員会における当年度事業計画、運営方針および予算の審議
- ・上記計画に基づき、プログラム委員会において公開講座の企画計画を策定
- ・上記計画に基づき、リカレント教育委員会において企画計画を策定
- D** ・「日本女子大学生涯学習センター規則」、「リカレント教育課程要項」に沿った運営
- C** ・公開講座については、受講生数などの実績や受講生アンケートなどを実施。キャリア支援講座の資格試験合格率や、「毎日学ぶ英会話」の受講継続率などの検討。
- ・リカレント教育課程については、受講生アンケート、合同会社説明会参加企業アンケート、授業担当講師との日常的な情報交換や講師懇話会での議論の実施。
- また、2011～2015年度は、現代女性キャリア研究所の研究プロジェクト「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」（文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業）において、一般女性やリカレント受講生、リカレント修了生に対するアンケート調査や、試験的な特別講座の試みにより新たな授業形態を開拓した。
- ・生涯学習センター運用委員会および生涯学習センター運営委員会において事業報告や収支報告を行う。
- A** ・プログラム委員会および生涯学習センター運用委員会において、改善提案を検討、審議する。
- ・リカレント教育委員会において、改善提案を検討、審議する。



## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

到達目標 1. (地域連携) 文京区及び川崎市との連携を強化し、多様な形態の講座や事業の提供を通じて大学の研究成果を地域社会に還元する

対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2)地域・社会との連携体制

今年度の達成状況：  A ・  B ・  C

点検と今後の展望：

- ・文京区アカデミア講座への講座提供を通じ、本学の研究成果を地域の方々に還元した。
- ・川崎市教育委員会連携講座へ西生田キャンパスの自然環境を生かした子ども向け講座や、附属中学教員による子ども向け講座を提供し、地域貢献につとめた。
- ・子育て支援事業の参加料および講師料の見直しにより参加者数を回復し、引き続き好評の心理相談とともに、心理学科の教育研究成果を地域に還元した。

到達目標 2. (生涯教育) リカレント教育課程において、企業との連携による講座を開講することにより、新たな学習機会の提供と再就職支援の強化を行い、この取り組みを周知する活動を展開する

対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育

(1)キャリア開発とリカレント教育課程

今年度の達成状況：  A ・ B ・ C

点検と今後の展望：

- ・昨年度に引き続き、現代女性キャリア研究所・リカレント教育課程・合同会社西友共催で「セルフリーダーシップ・プログラム」を実施し、実地見学、グループワーク、プレゼンテーションを通して、より実践的な学習機会を提供した。
- ・大同生命保険株式会社寄付講座としてリカレント連携講座「女性と起業」を開講し、寄付講座の周知のため成瀬記念館に残された関連資料・写真による広報を行い、新たな学習機会を提供した。

到達目標 3. (学生への修学支援) 在学生向けに正課外として開講しているキャリア支援講座(資格取得・語学・就職活動支援)において、学習奨励を目的とした受講料優遇等を実施することにより、資格取得や語学力向上といった学生支援につなげる

対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育(1)キャリア開発とリカレント教育課程

今年度の達成状況：  A ・ B ・ C

点検と今後の展望：

- ・学習奨励措置により今年も高い合格率を上げた「旅行業務取扱管理者対策講座」(「総合旅行業務取扱管理者」の全国平均合格率約 12%のところ、本学合格率は約 55%)に加え、2015 後期より「TOEIC®スタート講座」においても出席率と成績による受講料返還制度を実施し、基準点(550点)を超えた者が昨年度の 3 名から 5 名に増加した。

到達目標 4. (学園関連組織との連携) 各学部・学科、桜楓会、WILPF、RIWAC などの学園関連組織等との連携により講座や事業を行い、生涯学習や働く女性の支援事業を進める

対応する中・長期計画の項目：3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2)地域・社会との連携体制

今年度の達成状況：  A ・ B ・ C

点検と今後の展望：

- ・上記の RIWAC 連携プログラムのほか、桜楓会、WILPF との連携講座を実施し、とりわけ今年度は女性の働き方に関わるテーマでの開講により、女子総合大学としての本学ならではの公開講演会を開催することが出来た。また、後期には日本文学科との共催として「メディア文化論」を開講し、研究会型の講座により、キャリア支援講座の新たな可能性を探ることが出来た。
- ・成瀬記念館所蔵の写真を用いてプログラム冊子の表紙を刷新し、本学の歴史の想起を図った。

## 2015 年度 到達目標点検シート

担当： メディアセンター

## 1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDCAサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化

事業計画や各課員の目標をベースとして目標と方針を決定し、各課員がそれに基づき業務を遂行していく。

課員については中間面談により、部門としては課内会議や予算執行状況の確認、それと夏期と春期に行う要望調査によって、目標の達成度や問題点など状況を把握する。

年度末の最終的な目標到達度を踏まえ、課員にはフィードバック面談で状況を伝え、その内容をもって次の目標・計画を策定していく事でPDCAサイクルを実施している。

## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

## 到達目標 1. ICT を利用し学生が主体的に学習する環境を整備する

対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画

1-3 キャンパス計画 教育改革・教育研究環境の充実を実現するためのキャンパス再整備

今年度の達成状況： A ・  B ・ C

点検と今後の展望：次年度よりコンピュータ演習室へ iPad や電子黒板の導入を実施し、アクティブラーニング（反転授業、グループ討議、ワークショップ等）にも対応できる設備環境を検討していく。また、コンピュータ演習室についてはキャンパス統合に向け、2021 年のシステム更新を予定しており、最新の ICT を見据えた上でより柔軟な環境を提供できるように整える。

## 到達目標 2. 予期せぬ災害や外部からの攻撃に備え BCP 計画の策定を行い、発生時には迅速に対応できる

対応する中・長期計画の項目：4. 管理運営 (3) 危機管理体制の明確化

今年度の達成状況： A ・ B ・  C

点検と今後の展望：データセンターについて資料の収集や現地見学を行うなど検討は行ったが、実際に活用するには至っていない。次年度はメディアセンター内の業務の見直しや電子資料の整理を行い、現実的なデータセンターの活用方法を検討するとともに、BCP 計画の策定を進めたい。

## 3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 3. 2016 年度以降のコンピュータ演習室環境の検討</b></p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：これまで4年毎に演習室環境の更新を行っており、次の更新は2016年が目安であったが、Windows10の発売、2021年のキャンパス統合を見据え、2016年は現状の環境を維持することを決定した。更新は2017年に行い、4年間運用する予定である。2017年の更新については、2016年度前期におおよその方針を固める必要があるため、最新のICTを見据えた上で、コストと性能のバランスがとれたシステムを引き続き検討する。</p>
<p><b>到達目標 4. 学内のネットワーク環境整備（無線LAN設備の増強等）</b></p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：学生が所有しているノートPCを、無線LANを利用してインターネット接続をするサービスであるJASMINE-wirelessのアクセスポイントを増やし、学生の利便性を図った。授業環境としての無線LAN環境については、一部の教室に導入したが、教員からの利用場所拡大要望もあるため、今後の授業形態・内容に合わせ、他部署と連携しながら引き続き、環境整備に努める。</p>
<p><b>到達目標 5 LMS (Learning management system) の検討</b></p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：本学では2008年から、LMS(学習管理システム)としてWebCT(現在はWebCT社がBlackboard社に買収されたためBlackboard Learning Systemと改称)を導入して使用している。高機能ではあるが非常に高価なシステムであり、残念ながら使い勝手はあまり良くないという意見もある。システム変更によるデータ移行についての懸念意見もあるが、より活用しやすく、費用対効果の高いオープンソースをベースにしたシステムを引き続き調査・検証中である。</p>
<p><b>到達目標 6. 一般教室のPC設備の充実</b></p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：今年度は一般教室での持ち込みPC利用の利便性を図るべく、持ち込みPC用の各種常設ケーブルを追加した。また、次年度に向け、機種が古くなった常設PCの買い換えを行い、メンテナンス負荷軽減・PC環境の統一を実施するべく設置準備を進めている。貸出用PC、常設PC、持ち込みPCをバランスよく利用できる環境整備に努める。</p>
<p><b>到達目標 7. 学内のセキュリティの向上および啓発</b></p> <hr/> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：学内ネットワークのセキュリティの向上に努めていくと同時に、啓発活動によって教職員及び学生の意識の向上を図る。</p>

2015 年度 到達目標点検シート

担当：           カウンセリングセンター          

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDC Aサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化

- (P) 望ましい人格的成長および精神的健康と、そのために有効な支援方法の策定 →  
 (D) 支援方法のガイドラインに基づく支援の実施 →  
 (C) 対象学生の精神的健康、人格的安定性、適応状況の把握 →  
 (A) 結果から支援方法の見直しを行い改善点を策定する → (P)

2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 1. 附属校園および大学の校種間連携に、心理的支援という側面から寄与する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画                      1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3)健全な心身の完成をめざす健康教育</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：カウンセリングセンター内での幼～大の校種間連携のシステムを整えつつある。それと並行して、学園内の校種間の連携殿運動を検討している。今後も継続して実施していく。</p>
<p><b>到達目標 2. カウンセリング活動等を通じて、幼稚園から大学、大学院にわたる、精神的健康の維持増進および人格形成に貢献する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画                      1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育                      (1)「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の教育理念を継承する自校教育</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：問題や障害を抱えた学生が来談しやすい環境整備と情報提供を行うとともに、カウンセラーの資質向上、教職員のための講演会を実施した。今後も継続して実施していく。</p>
<p><b>到達目標 3. グループセミナー活動、カウンセリング活動、講義などを通して、すべての学生の心理的成長を促す</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画                      1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3)健全な心身の完成をめざす健康教育</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：グループセミナーは定着し、申込者数が増加した。カウンセリング件数も増加傾向にあり、これらは心理的成長の機会として機能している。講義も同様であり、今後も継続する。</p>



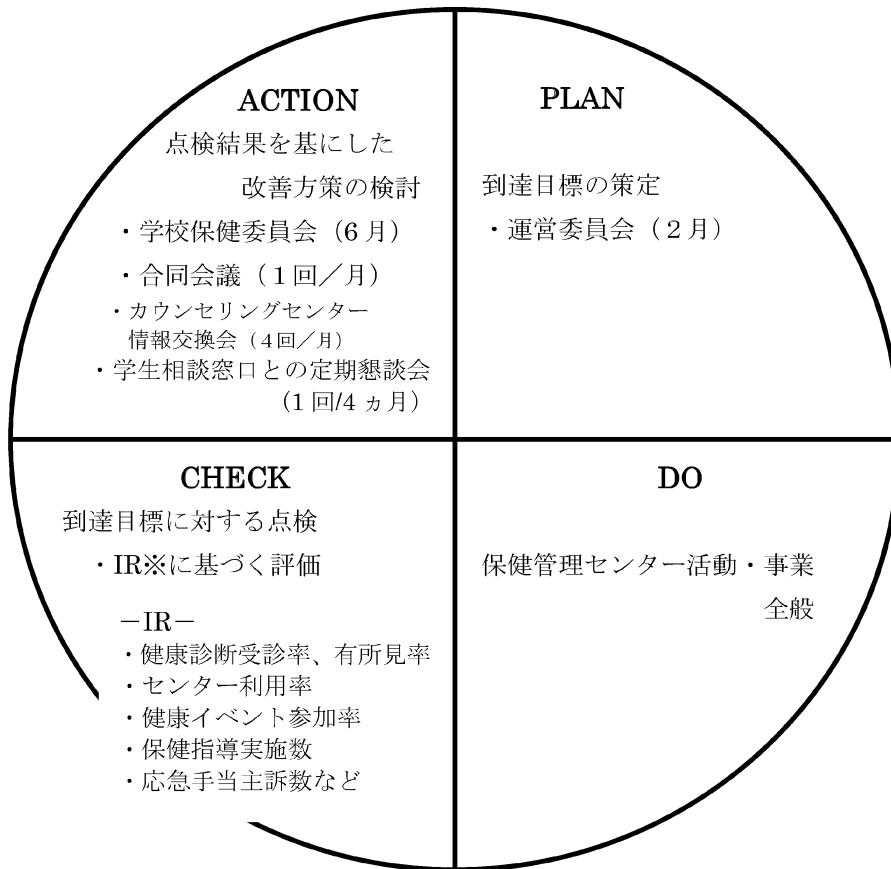
<p><b>到達目標 4. 保健管理センター、教務・資格課、学生課、国際交流課、学科等の連携をスムーズにし、キャンパス内の学生支援ネットワークを構築する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3)健全な心身の完成をめざす健康教育</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：コンサルテーションを中心とする学内連携は件数も増え強化されている。障害学生支援のための学内ネットワーク構築が学生課主導で進められており、継続的に協力していく。</p>
<p><b>到達目標 5. 精神障害、発達障がい（疑いを含む）学生への支援体制を構築する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画 (4)学生支援(学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など)の充実 ③障がいのある学生への学修支援体制整備</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：嘱託医と連携し、正確なアセスメントと的確な対応を実施している。さらに、学内コンサルテーションによって、学生支援ネットワークを強化している。今後も継続していく。</p>
<p><b>到達目標 6. 研修会・研究会への参加を通じて臨床心理士の専門性を高める</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画 (4)学生支援(学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など)の充実 ③障がいのある学生への学修支援体制整備</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：学時報告にも記載のとおり、各カウンセラーが必ず研修会に参加し、伝達講習、情報共有を行っている。今後は特に発達障害の就労支援が大きな課題である。</p>
<p><b>到達目標 7. キャンパス統合にむけて学生が利用しやすい環境を計画する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3)健全な心身の完成をめざす健康教育</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：キャンパス統合後のカウンセリングセンターの必要設備を検討し、キャンパス計画室に提出した。引き続き、学園全体の計画の進展に合わせ、検討していく。</p>

2015 年度 到達目標点検シート

担当： 保健管理センター

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDC Aサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンスベースによるプロセスの可視化



## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 1. 大規模地震及び災害に備え、学生の応急手当に関する自助力の向上をめざす</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3)健全な心身の完成をめざす健康教育</p> <p>今年度の達成状況： A ・ B ・ <input checked="" type="checkbox"/> C</p> <p>点検と今後の展望：学生が AED に関する教材各種に触れることを目標に、利用率が高い健康イベントに専用コーナーを併設した。参加者は約 20 名でそのうち半数は訓練の未経験者であった。簡易的ではあるが訓練も実践できたが、費用対効果は高くはない。より多くの学生が AED のしくみを知るために、教養特別講義 1 等の全員が参加する機会に、体験できることがのぞましい。</p>
<p><b>到達目標 2. 喫煙、不適切な飲酒、薬物乱用をはじめとする危険行動を、学生が回避できるためのライフスキルの向上をめざす</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画 1-2 大学の教育改革 豊かな人間性をはぐくむ実践教育 (3)健全な心身の完成をめざす健康教育</p> <p>今年度の達成状況： A ・ B ・ <input checked="" type="checkbox"/> C</p> <p>点検と今後の展望：教養特別講義 1 における教育の他、調査により、「喫煙している」「過度な飲酒をしている」と回答した学生については、呼び出し、状況確認を実施した。飲酒については回答が誤っていた事例が多く、調査方法を再検討する必要がある。</p>

## 3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 3. 教職員健康管理体制の充実</b></p> <p>・労働安全衛生法改正(ストレスチェック制度の導入)及び学校保健安全法施行規則の一部改正(健康診断の技術的基準変更)に則した健康管理体制の再構築を推進する</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <input checked="" type="checkbox"/> B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：ストレスチェックは 2016 年 11 月、健康診断の技術的変更は 2016 年 6 月に実施できるよう、委託機関や部内での調整を遅滞・支障なくおこなえている。新年度には、円滑な実施のために学内への周知や実施後の確実な措置などができて、体制の再構築となる。</p>
<p><b>到達目標 4. 児童・生徒・学生の健康診断の確実な実施</b></p> <p>・学校保健安全法施行規則の一部改正(健康診断の技術的基準変更)に則した健康診断を確実に実施し、一層の充実をはかる</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <input checked="" type="checkbox"/> B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：健康診断の技術的変更は 2016 年 4 月に実施できるよう、委託機関や部内での調整を遅滞・支障なくおこなえている。新年度には、実施後の確実な措置をして評価ができる。</p>

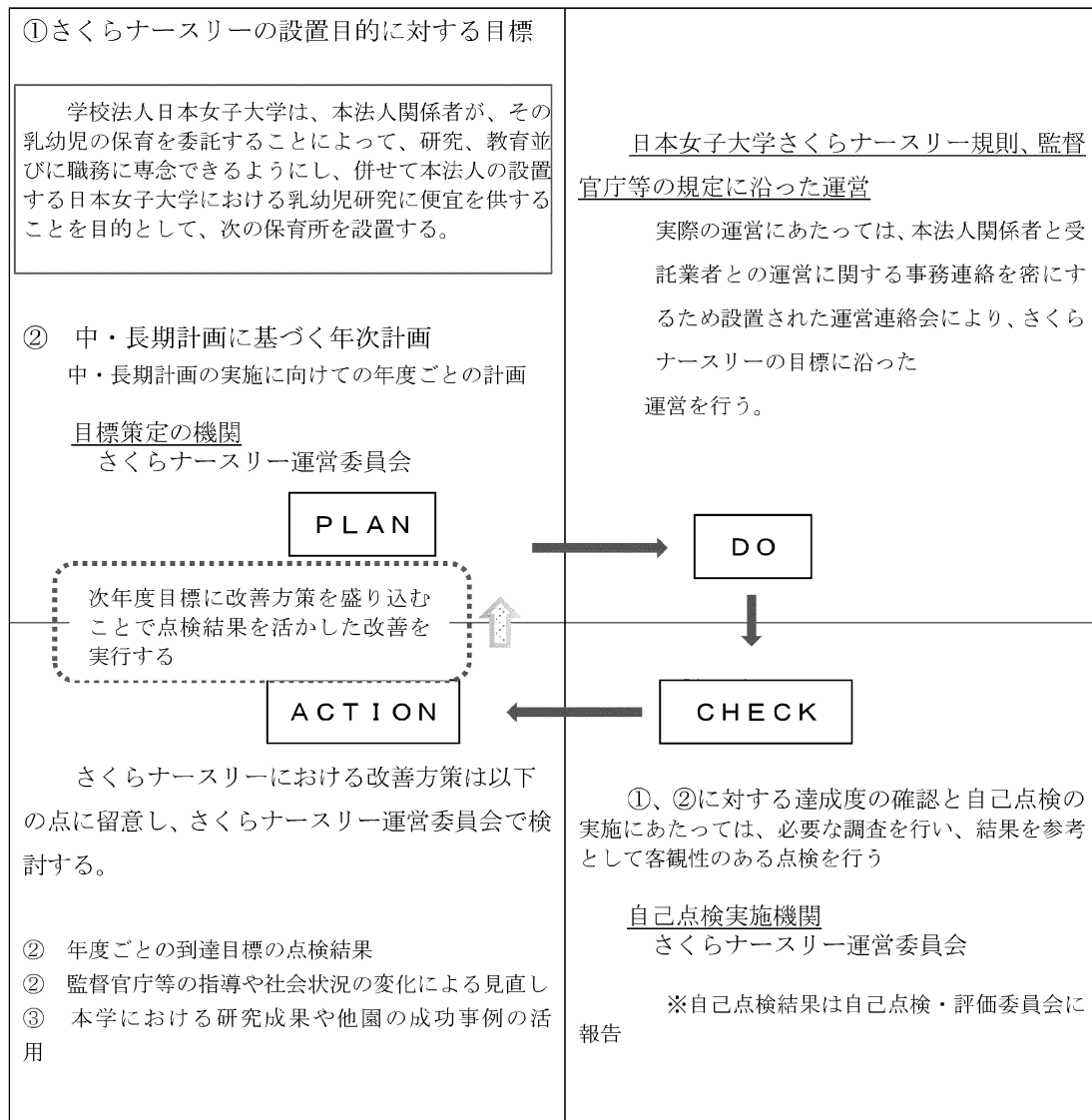
2015年度 到達目標策定シート

名称： さくらナースリー

1. 内部質保証に関する目標

内部質保証に関わるPDC Aサイクルまたはこれに代わるしくみの見直しとIRを活用したエビデンススペースによるプロセスの可視化

本来あるべき内部質保証の仕組み



本年度の内部質保証について

- ① 現状の認識 (C)・・・財務データ・利用者データ、アンケート・ヒアリング調査
    - ↓ 財務状況、利用者の推移、利用者の満足度、子どもの状況、潜在的利用者のニーズ把握、社会状況の把握
  - ② 関係部署との課題の共有 (A)・・・
    - ↓ 事業者、幼稚園、理事、関係学科、自治体、地域
  - ③ 目標に向けての対策・計画の立案 (P)・・・
    - ↓ ナースリーに関する運営規定・制度
  - ④ 実施 (D)
    - ↓ 新たな制度に基づき実施
- 現状認識 (C)
- ↓

以上について、今年度は①についてのエビデンスを準備、さらに、②については学内理事と課題を共有したが、③には至っていない。

## 2. 中・長期計画への対応

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p><b>到達目標 1. 学生・教員の教育・研究の場として機能するように保育現場と連携して検討する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：2. 大学・大学院の教育研究計画                  (1) 学位授与方針(ディグリーポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラムポリシー)の実施と教育の質保証 ①保育士養成課程の設置</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：_現状において、児童学科の研究室単位で、学生の見学・実習が行われているが、保育士養成課程の設置にあわせて、実習の場として活用できるように検討する必要がある。</p>
<p><b>到達目標 2. 事業所内保育所としての機能を損なうことなく、今後、社会貢献の可能性についても検討する</b></p> <p>対応する中・長期計画の項目：1. Vision120 に向けての将来計画                  1-3 キャンパス計画 目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実                  (3)地域連携・社会貢献型教育研究の促進                  3. 一貫教育、生涯教育計画 一生を支える生涯教育 (2)地域・社会との連携体制</p> <p>-----</p> <p>今年度の達成状況： A ・ <b>B</b> ・ C</p> <p>点検と今後の展望：2017 年度より国の制度改革により、事業所内保育園でも、認可が受けられるようになったことから、その制度の研究、本学での適用について検討を行なった。今後は、生涯教育、地域・社会への貢献についても検討し、本学らしいあり方を明確にし、認可化を進めていく。</p>

3. その他

達成状況 A：達成 B：継続 C：内容の見直し

<p>到達目標 3. ナースリーを利用する可能性のある教職員・学生にアンケート調査を行い、ニーズを把握し、本学に相応しい保育環境について検討する</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <input checked="" type="checkbox"/> B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：利用者の満足は得られているが、ニーズ把握についての調査を今後進めていく必要がある。</p>
<p>到達目標 4. 保護者や保育士の意見を聴取し、利用する乳幼児の特性に合った安全で豊かな保育環境の整備を行なう</p>
<p>今年度の達成状況： A ・ <input checked="" type="checkbox"/> B ・ C</p> <p>点検と今後の展望：保育室の空間・環境について、利用する子どもの発達特性に応じた環境のあり方について検討を行なっていく必要がある。</p>